平成六年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

桂見遺跡群
岩吉遺跡
古市遺跡

1995

鳥取市教育委員会

平成六年度
鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書
一九九五
鳥取市教育委員会

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

桂見遺跡群
岩吉遺跡
古市遺跡

1995

鳥取市教育委員会

序　　文

この発掘調査報告書は、平成６年度に国・県の補助金を受けて実施した「鳥取市内遺跡」の発掘調査記録です。

鳥取市内には数多くの原始・古代遺跡があり、近年の各種開発事業の増加とともに発掘調査が必要となり、消えていく遺跡も増えています。しかしながら、埋蔵文化財は地域の先人の生活を語る歴史資料であり、後世に継承していくべき貴重な市民の財産です。このような認識のもと、鳥取市教育委員会では開発と文化財の共存をはかるべく、関係各機関との協議を重ね、また地元の方々の深い御理解をいただきながら文化財保護行政を進めているところです。

さて、本年度に調査を実施いたしました桂見遺跡群、岩吉遺跡、古市遺跡の発掘調査事業も地権者の方々をはじめとする関係各位の御協力によって無事所期の目的を果たし、大きな成果を得て報告書刊行のはこびとなりました。ささやかな冊子ではありますが、市民各位ならびに関係各位の御利用に供していただければ幸いです。

平成７年３月

鳥取市教育委員会
教育長　　田　中　哲　夫

例　　言

1．本書は、平成６年度に国・県の補助金を得て鳥取市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．調査を実施した遺跡は、桂見遺跡群、岩吉遺跡、古市遺跡である。

3．調査の期間は、平成６年８月１日から平成７年３月20日である。

4．本書における遺構の略記号として、ＳＫ：土坑、ＳＤ：溝状遺構、Ｐ：柱穴･ピットをもちいた。

5．本書に用いた方位は磁北を示し、レベルは原則として海抜標高とするが、桂見遺跡群については任意のレベルを用いている。

6．発掘調査によって作成された記録類および出土遺物は、鳥取市教育委員会に保管されている。

7．発掘調査の実施および本書の作成にあたって、多くの方々の協力を頂いた。記して感謝いたします。

8．発掘調査の体制は、下記のとおりである。

発掘調査主体　鳥取市教育委員会

事務局　　鳥取市教育委員会文化課

調査担当者　　平川誠（文化課文化財係）

本　文　目　次

序文
例言・凡例
Ⅰ　はじめに …… 1
　1．発掘調査の契機と目的 …… 1
　2．発掘調査の経過 …… 1
Ⅱ　桂見遺跡群 …… 3
　1．遺跡の位置と環境 …… 3
　2．発掘調査の概要 …… 5
Ⅲ　岩吉遺跡 …… 9
　1．遺跡の位置と環境 …… 9
　2．発掘調査の概要 …… 9
Ⅳ　古市遺跡 …… 17
　1．遺跡の位置と環境 …… 17
　2．発掘調査の概要 …… 17
Ⅴ　まとめ …… 24

挿　図　目　次

第1図 鳥取市桂見・岩吉・古市周辺遺跡分布図 …… 2
第2図 桂見遺跡群トレンチ配置図 …… 4
第3図 桂見遺跡群第1・2・3トレンチ平面・断面実測図 …… 6
第4図 桂見遺跡群第4トレンチ平面・断面実測図 …… 7
第5図 桂見遺跡群第5・6トレンチ平面・断面実測図 …… 8
第6図 岩吉遺跡トレンチ配置図 …… 10
第7図 岩吉遺跡第1トレンチ平面・断面実測図 …… 11
第8図 岩吉遺跡第2トレンチ平面・断面実測図 …… 12
第9図 岩吉遺跡第1トレンチSD-01実測図 …… 13
第10図 岩吉遺跡第2トレンチSK-1，3実測図 …… 13
第11図 岩吉遺跡第3トレンチ断面実測図 …… 14
第12図 岩吉遺跡第3トレンチ断面実測図 …… 14
第13図 岩吉遺跡第5トレンチ断面実測図 …… 15
第14図 岩吉遺跡第6トレンチ断面実測図 …… 15
第15図 岩吉遺跡第1トレンチ出土遺物実測図 …… 16
第16図 岩吉遺跡第2トレンチ出土遺物実測図 …… 16
第17図 古市遺跡トレンチ配置図 …… 18
第18図 古市遺跡第1トレンチ平面・断面実測図 …… 19
第19図 古市遺跡第2トレンチ平面・断面実測図 …… 20
第20図 古市遺跡第3トレンチ平面・断面実測図 …… 21
第21図 古市遺跡第4トレンチ平面・断面実測図 …… 22
第22図 古市遺跡第5トレンチ平面・断面実測図 …… 22
第23図 古市遺跡出土遺物実測図 …… 23

図　版　目　次

図版１　１．桂見遺跡群第１・第２トレンチ周辺遠景（北から）
　　２．　　同　　第３・第４トレンチ周辺遠景（北東から）
　　３．　　同　　第５・第６トレンチ周辺遠景（北西から）
　　４．　　同　　第１トレンチ（南東から）
図版２　１．桂見遺跡群第２トレンチ北西壁断面（東から）
　　２．　　同　　第３トレンチ南壁断面（北西から）
　　３．　　同　　第４トレンチ北西壁断面（東から）
　　４．　　同　　第５トレンチ北壁断面（南西から）
図版３　１．桂見遺跡群第５トレンチ（西から）
　　２．　　同　　第６トレンチ（西から）
　　３．岩吉遺跡調査地遠景（上空北東から）
　　４．　　同　第１・第２トレンチ周辺遠景（南東から）
図版４　１．岩吉遺跡第１トレンチ（南東から）
　　２．　　同　第１トレンチＳＤ－１、ＳＤ－２（北東から）
　　３．　　同　第２トレンチ（南東から）
　　４．　　同　第２トレンチ南壁断面（北東から）
図版５　１．岩吉遺跡第２トレンチＳＫ－１、Ｐ－１、Ｐ－２（北東から）
　　２．　　同　第２トレンチＳＫ－１（北から）
　　３．　　同　第２トレンチＰ－１断面（北西から）
　　４．　　同　第２トレンチＳＫ－３（南東から）
図版６　１．岩吉遺跡第３トレンチ（南東から）
　　２．　　同　第４トレンチ（南東から）
　　３．　　同　第５トレンチ北壁断面（南から）
　　４．　　同　第６トレンチ（南東から）
図版７　１．古市遺跡調査区北側近景
　　２．　　同　調査区南側近景
　　３．　　同　第１トレンチ遺構検出状況（北から）
　　４．　　同　第１トレンチ（南から）
図版８　１．古市遺跡第２トレンチ（東から）
　　２．　　同　第２トレンチＳＫ－01（東から）
　　３．　　同　第３トレンチ（南から）
　　４．　　同　第３トレンチＳＫ－01（西から）
図版９　１．古市遺跡第３トレンチＳＫ－01遺物出土状況
　　２．　　同　第３トレンチＰ－04（西から）
　　３．　　同　第４トレンチ（南から）
　　４．　　同　第５トレンチ（南から）
図版10　岩吉遺跡、古市遺跡出土遺物

Ⅰ．はじめに

１．発掘調査の契機と目的

鳥取市は、鳥取県の東部に位置し面積約239万㎡、人口約14万5千人を擁する山陰の中核都市である。県庁所在地として政治・経済・文化の中心的な役割を担っている。北方には鳥取砂丘そして日本海が広がり、市の中央部を南から北へと千代川が流れている。市域の中心は、千代川の沖積作用によって形成された鳥取平野が占めており、平野の周辺部は丘陵地となっている。近年まで平野部は主として水田として利用され、丘陵地では梨を中心とする果樹栽培が行われてきた。しかし、近年は企業進出による工業用地や住宅団地の造成等によって土地利用の変化が著しい。

肥沃な鳥取平野は、原始・古代から重要な生産基盤として人々の生活を支えるとともに交通の要所としても重要な位置を占め、政治・経済・文化の中心として現在に至っている。このように恵まれた地理条件を背景に鳥取市内には、数多くの遺跡が残されている。遺跡は各時代にわたり、これまでの分布調査によって二千ヶ所を超える古墳、遺物散布地等が確認されている。このため各種開発事業との調整が必要となる遺跡も近年増加の一途をたどっている。今回報告する桂見遺跡群、岩吉遺跡、古市遺跡もそれぞれ森林公園造成、変電所及び鉄塔建設、道路整備の開発事業が計画され事前に協議を受けたものである。それぞれの遺跡とも、開発事業との円滑な調整に必要な具体的な資料が少ないため、各遺跡の範囲、遺構・遺物の有無と埋蔵状況、遺跡の性格等の詳細な資料を得ることを目的として発掘を実施した。

２．発掘調査の経過

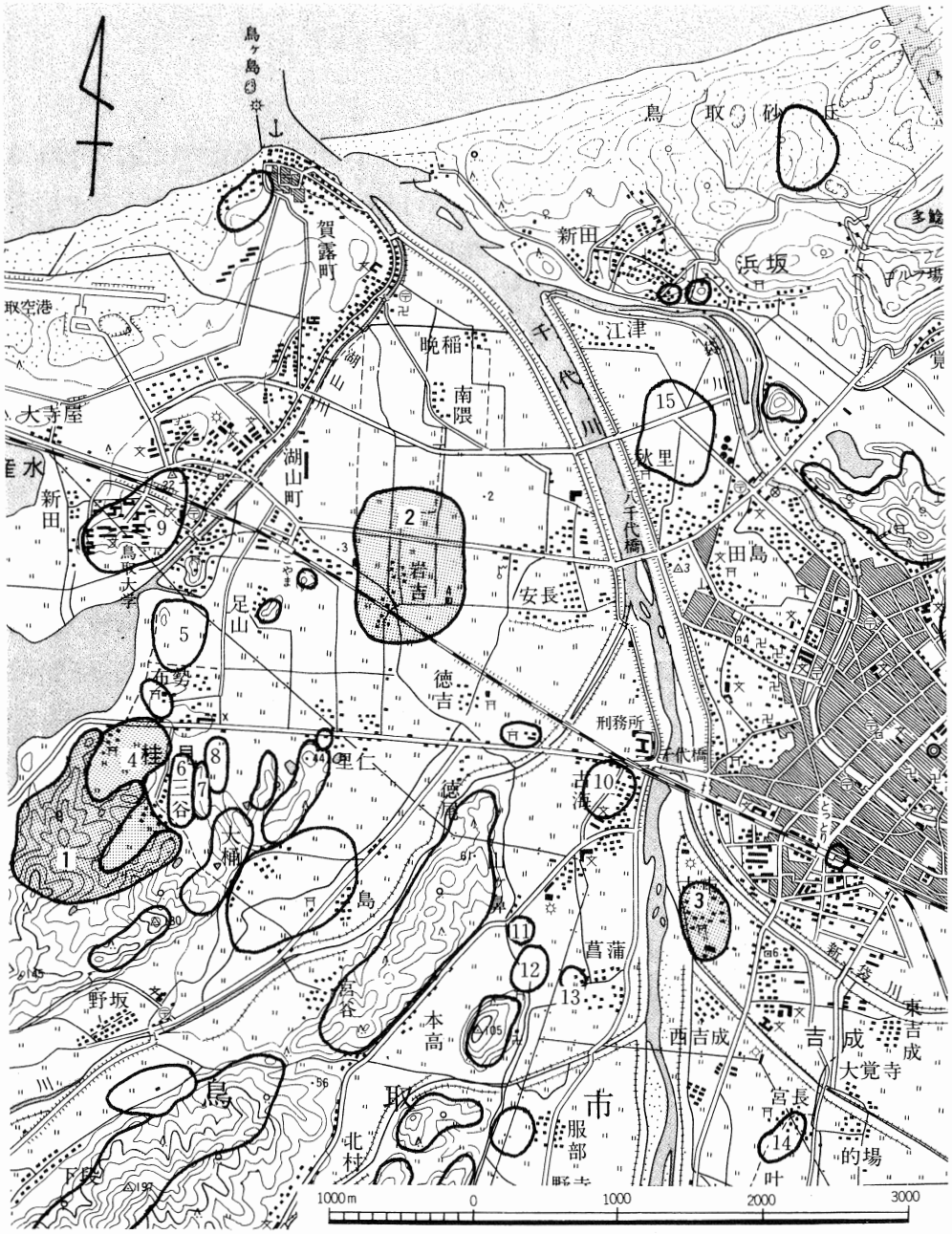
発掘調査は、各調査区ともトレンチ掘削による遺構及び遺物包含層の確認に主眼をおいて桂見遺跡群から着手し、その後岩吉遺跡、古市遺跡と順次実施した。

桂見遺跡群は、平成６年10月11日から10月26日まで、設定した６本のトレンチについて、調査を行った。調査面積は57.6㎡となる。

岩吉遺跡は、平成６年11月１日から11月24日まで、設定した６本のトレンチについて、調査を行った。湧水が激しく調査は困難を極めた。調査面積は330㎡となる。

古市遺跡は、平成６年11月29日から12月12日まで、設定した５本のトレンチについて、調査を行った。調査面積は108.5㎡となる。

以上３遺跡の調査面積の総計は496.1㎡となる。なおトレンチはオープン掘削の為、安全性を考慮し、段掘りにするなどの配慮をした。このため断面図は同一方向の壁面を合成したものもある。整理作業・報告書作成については調査終了後に順次行った。



1．桂見遺跡群
2．岩吉遺跡
3．古市遺跡
4．桂見遺跡
5．布勢天神山城跡
6．東桂見遺跡
7．布勢鶴指奥墳墓群
8．布勢遺跡
9．湖山遺跡群
10．古海遺跡
11．山ケ鼻遺跡
12．菖蒲遺跡
13．菖蒲廃寺
14．宮長竹ケ鼻遺跡
15．秋里遺跡

第1図　鳥取市桂見・岩吉・古市周辺遺跡分布図

Ⅱ. 桂見遺跡群

1．遺跡の位置と環境

桂見墳墓群・桂見遺跡は、鳥取市桂見地内に所在し、ＪＲ鳥取駅の西約５㎞、ＪＲ湖山駅の南西約1.5㎞に位置する。周辺は、中国山地から派生した丘陵と、千代川の堆積作用と湖山砂丘の発達によって形成された潟湖である湖山池が近接し、桂見墳墓群は湖山池の南東部に放射状に張り出す低丘陵上に形成されている。また桂見遺跡は同低丘陵の北側に形成された沖積地に形成されている。

この湖山池周辺では、縄文時代から人々の営みの痕跡が認められている。今回の調査対象遺跡でもある桂見遺跡からは、古くは前期最終末から中期の土器が出土しており、後期・晩期では土坑とともに多くの土器やネット状編み籠、トチの実等が出土している。またそのほかに、後期に主体をおく布勢遺跡や青島遺跡が知られている。

弥生時代に入ると、湖山池周辺の低湿地で小規模ながら水田耕作が行われるようになり、その周辺の丘陵裾部や微高地上に集落が、また低丘陵上に墳墓が営まれるようになったと推定される。それを示す遺跡としては、前述の桂見遺跡、青島遺跡のほかに、前期から後期まで引き続いて集落が営まれた岩吉遺跡、湖山第２遺跡等をあげることができる。岩吉遺跡では水田遺構とともに掘立柱建物群が検出されており、湖山第２遺跡からは玉作り工房と推定されている住居跡を含む20数棟の竪穴式住居跡が検出されている。

また墳墓遺跡としては、後期の土壙墓群や四隅突出型墳丘墓が検出された西桂見遺跡、桂見墳墓群、布勢鶴指奥墳墓群等が知られている。

さらに中期の土器や木製品とともに分銅形土製品が出土した塞ノ谷遺跡や流水文銅鐸が出土した高住遺跡があり、集落遺跡と密接な関係をもつ祭祀的な要素をもつ遺跡として知られている。

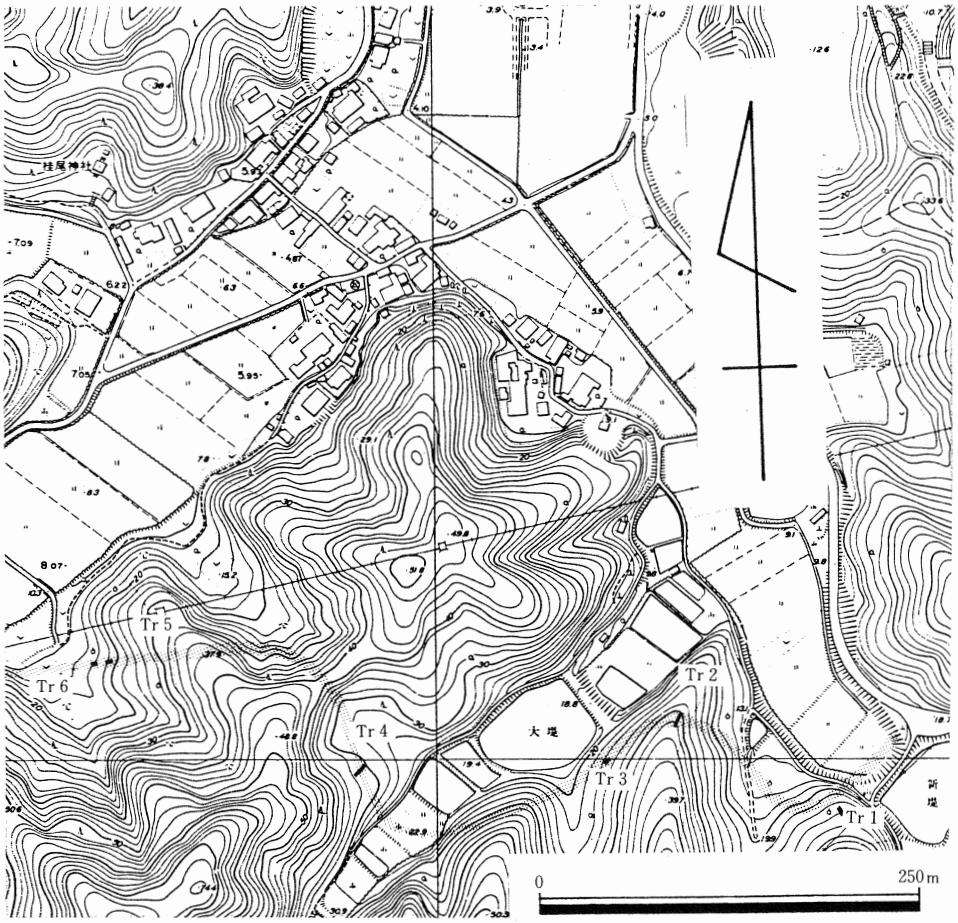
古墳時代に入ると前述の桂見遺跡、岩吉遺跡、湖山第２遺跡等が継続して営まれ、周辺の低丘陵上には規模・形態とも大小様々な古墳が造営されることとなる。前期では舶載鏡の斜縁獣帯鏡や内行花文鏡が検出された方形墳の桂見２号墳（28×22ｍ）を含む桂見墳墓群や倉見古墳群等が知られ、中期では因幡地方最大規模の前方後円墳である桷間１号墳（92ｍ）や鰭付円筒埴輪、竪櫛等が検出された里仁古墳群、中期末から後期初頭にかけての前方後円墳である布勢１号墳（59ｍ）が知られる。また後期では小規模前方後円墳である桂見６号墳（24.5ｍ）や釣山２号墳（26.4ｍ）のほかに横穴式石室をもつ高住12号墳や巨石をくり抜いた石棺型石室をもつ山ヶ鼻古墳（古海13号墳）が知られている。

律令体制下に入るとこの地域は因幡国高草郡に組み込まれるが、体制の崩壊後は東大寺領「高庭荘」として開発されていったことが『東大寺東南院文書』に記されている。条里や荘園を復元する手がかりについては文献等以外では今の所少ないが、その後もこの地域では人々の足跡は継続して認められる。布勢第２遺跡では中世の倉庫跡が検出され、桂見遺跡では土師質土器や人形等が検出

されたほか、15世紀には湖山池東岸の天神山に因幡守護山名氏が城を構え、因幡支配の拠点としている。また、周辺の低丘陵上では西桂見遺跡、桂見墳墓群、布勢鶴指奥墳墓群、里仁古墳群等から土葬墓・火葬墓が調査されている。

その後この地域は因幡支配の拠点が久松山鳥取城に移ったためのどかな農村地帯となるが、昭和40年代以降の布勢総合運動公園の整備等で再び活気を帯びることとなる。

以上のようにこの湖山池周辺地域は、原始・古代から因幡地方の中心地の一つとして重要な位置を占めてきた地域であるといえる。



第2図　桂見遺跡群トレンチ配置図

2．発掘調査の概要

調査対象地区の道路建設予定地は、谷部・低丘陵部にまたがっているが、事前の踏査によって遺構存在の考えられうる丘陵斜面に３本（Ｔｒ１、５、６）、尾根上に１本（Ｔｒ２）、丘陵裾部に１本（Ｔｒ３）、丘陵麓部の段状部分（Ｔｒ４）の計６本（総面積 57.6㎡）のトレンチを設定した。なお現況において水準点の移動が困難なことから、作成した図面のレベルは各トレンチごとに任意の基準点を設定して計測を行った。以下、対象地区の東側から第１、第２……第６トレンチとして各トレンチ調査の概略を述べていきたい。

第１トレンチ（Ｔｒ１）

６本のトレンチのうち最東部の標高25ｍ程度を測る丘陵斜面に設定した５×２ｍ（10㎡）のトレンチで、近年までは梨の果樹園として利用されてきた所である。北側に位置する谷部の水田との比高差は約15ｍ程度である。現況では、果樹園経営の際の削平等のほか微妙な傾斜の変換が認められ、墳墓または生活跡の存在が想定された。

調査の結果、果樹園経営時の肥料穴が認められたほかは当該の遺構を示すものは見受けられなかった。また、遺物も検出されなかった。

第２トレンチ（Ｔｒ２）

第１トレンチの北西約125ｍに位置し、同トレンチを設定した低丘陵とは小さな谷を挟む形で北に延びる低丘陵の尾根上に設定した10×１ｍ（10㎡）のトレンチである。標高は30ｍ前後を測る。調査対象地区は果樹園・植林・雑木林となっている低丘陵を東西に横断するが、踏査の結果この尾根上には墳墓存在の可能性を示す若干の高まりや傾斜の変換が認められ、対象地区内でもそれらに関連した遺構の存在が想定された。

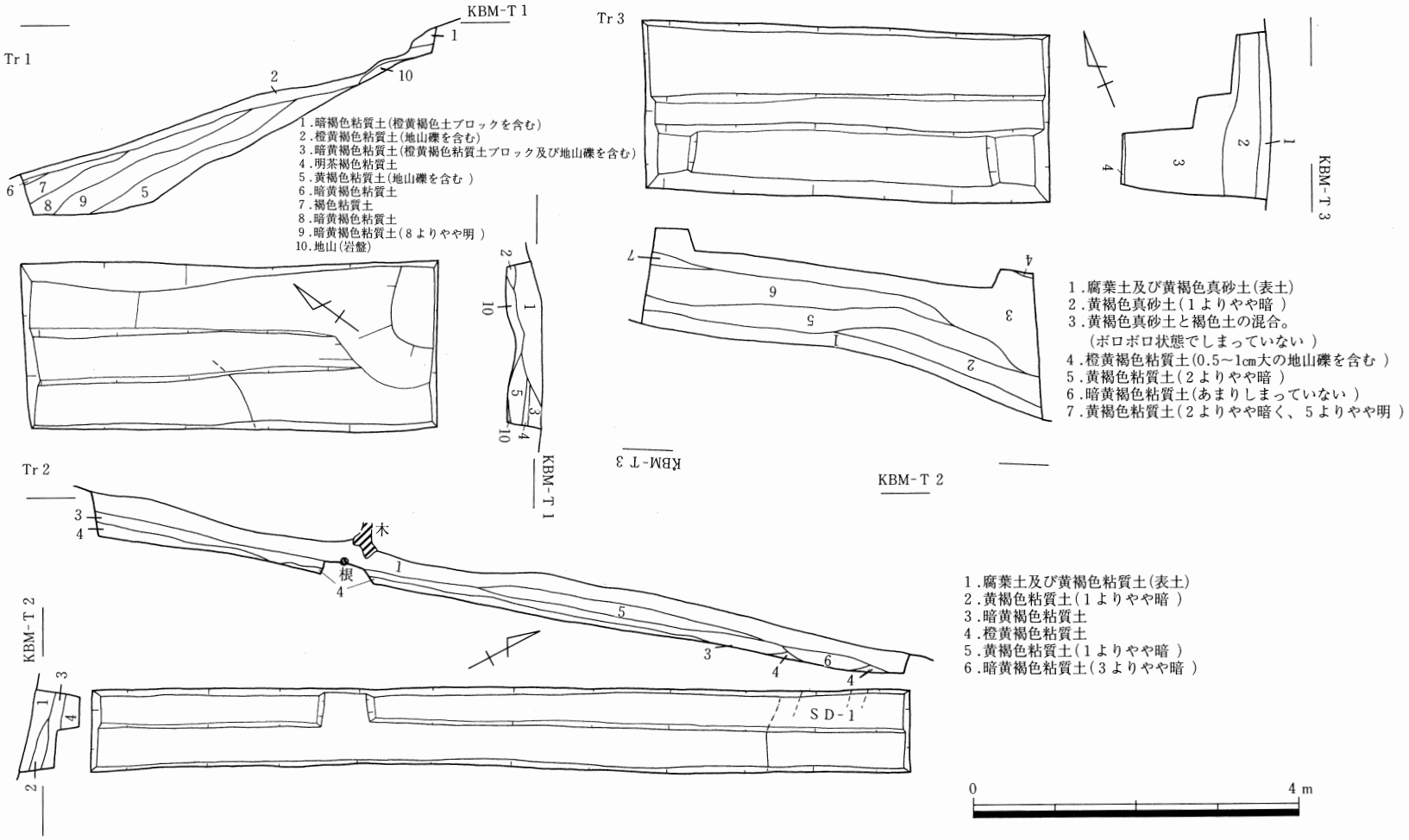
調査の結果、トレンチ北端部の地表面下約20㎝でトレンチ（尾根）を東西に横切る浅い溝状遺構（ＳＤ－１）が検出されるとともに同埋土中から器種・器形等は不明ながら土師器片が検出された。またＳＤ－１より高所側では、同遺構にカットされる形で旧表土の可能性の考えられる暗黄褐色粘質土が認められた。

第３トレンチ（Ｔｒ３）

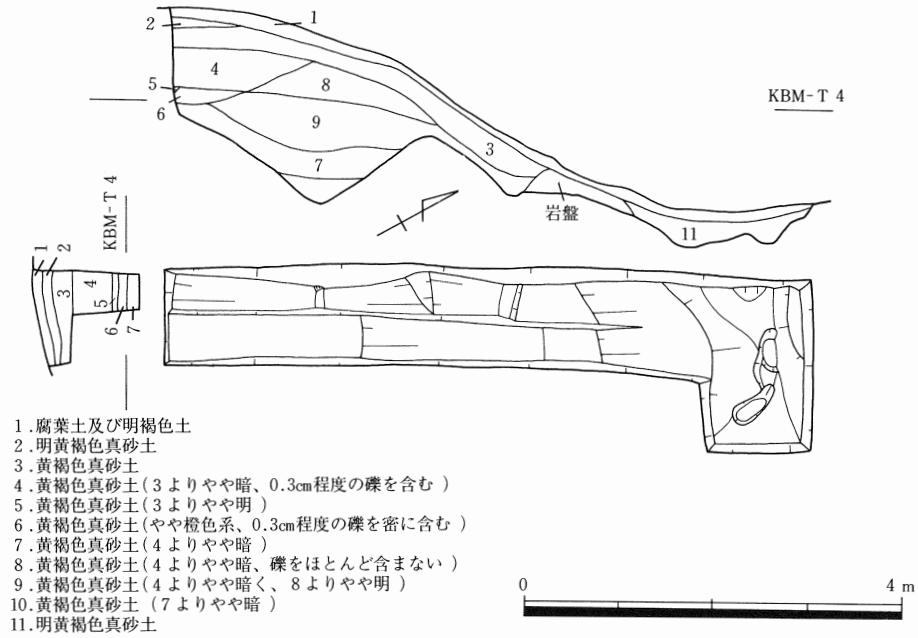
第２トレンチを設定した低丘陵の西側裾部で第２トレンチの南西約50ｍに設定した５×２ｍ（10㎡）のトレンチである。現況は雑木林となっており、当初生活跡等の存在を想定したが、調査の結果、これらに該当する遺構・遺物ともに検出されなかった。

第４トレンチ（Ｔｒ４）

第３トレンチの北西約160ｍに位置し、同トレンチを設定した低丘陵とは奥行き約160ｍの谷を挟む形で北東に延びる低丘陵の南東側麓部の段状部分に設定したトレンチである。当初トレンチは６×１ｍを設定したが途中で若干拡張し、調査面積は7.6㎡となった。現況は植林がなされているが、所々小規模な高まりが認められ、墳墓遺構によるものか自然地形によるものか踏査では明確な判断



第3図　桂見遺跡群第1・2・3トレンチ平面、断面実測図



第4図　桂見遺跡群第4トレンチ平面、断面実測図

ができなかった地区である。

調査の結果、地山には部分的に落ち込みが認められるものの、土層観察からは積極的に当該の遺構であると判断するには至らなかった。また、遺物は検出されなかった。

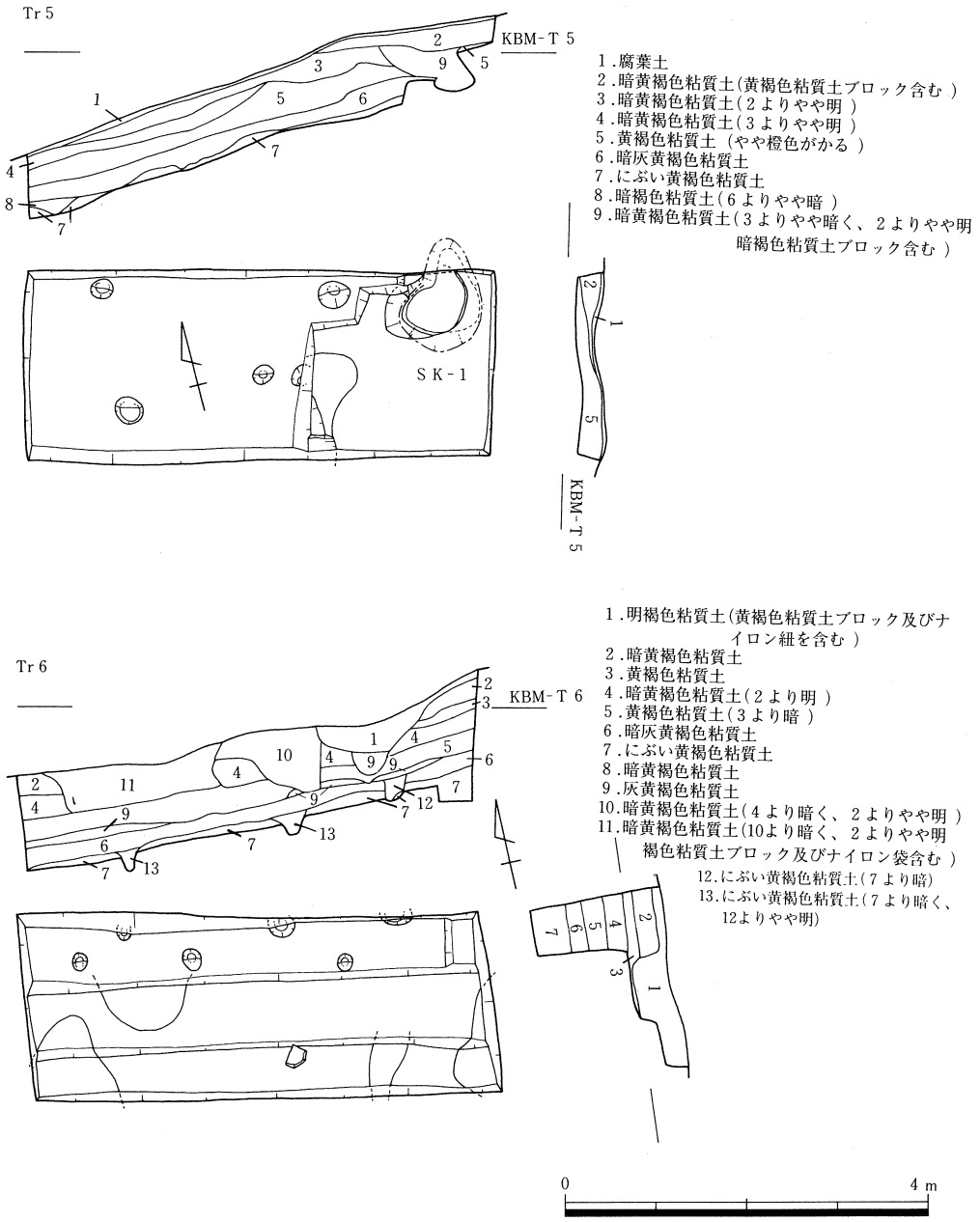
第5トレンチ（Tr5）

第4トレンチの北西約180mで、北側は奥行き700m以上の谷に面する丘陵斜面に設定した5×2m（10m²）のトレンチである。付近は近年まで果樹園経営がなされていたようであるが、現在は植林がなされている。

調査の結果、上層部は果樹園経営時のものと考えられる肥料穴等によって攪乱を受けていたが、同様の攪乱土と考えられる第2（暗黄褐色粘質土）層下で袋状土坑（SK－1）を検出した。また、第7（にぶい黄褐色粘質土）層上面から掘り込まれる5基のピットを検出した。なお、遺物はSK－1内から詳細不明の土師器細片が検出されたに留まった。

第6トレンチ（Tr6）

第5トレンチと同じ丘陵斜面で、同トレンチの西約5mの傾斜の変換点に設定した5×2m（10m²）のトレンチである。第5トレンチと同様に上層部は果樹園経営時のものと考えられる肥料穴等によって攪乱を受けていたが、第13（にぶい黄褐色粘質土）層上面から掘り込まれる6基のピットを検出した。なお遺物は検出されなかった。



第5図　桂見遺跡群第5・6トレンチ平面、断面実測図

Ⅲ. 岩　吉　遺　跡

1．遺跡の位置と環境

岩吉遺跡は市街地から北西に約４㎞の岩吉地内を中心として所在する。周辺にはかつて潟湖であった湖山池をはじめ、西に天神山・足山などの小独立丘陵が点在し、南東には通称「徳尾の森」と呼ばれる大野見宿弥命神社の社叢がある。

昭和63年度から平成２年度にかけて実施された調査では、弥生時代中期後葉から古墳時代後期初頭を中心とする大集落遺跡であると報告されている。水田址・水路等の遺構に伴って多量の木製品が出土しており、その中には木包丁・竪杵・横槌等の農工具の他、刀形・鳥形を模造したものもみられる。

湖山池周辺では弥生時代から古墳時代にかけての遺跡として布勢グラウンド第２遺跡・帆城遺跡が知られており、古墳時代になると全長92ｍの桝間１号墳・布勢１号墳・古海36号墳・三浦１号墳などの大小様々な古墳が築造される。集落遺跡・遺物散布地としては前述の岩吉遺跡の他に、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である桂見遺跡があり、近年縄文の丸木舟が出土し脚光を浴びた。また特徴ある弥生時代から中・近世にわたる複合遺跡として秋里遺跡があげられる。旧千代川左岸に営まれたこの遺跡は各時代において、一般集落とは若干性格の異なる祭祀色の強い遺跡である。

2．発掘調査の概要

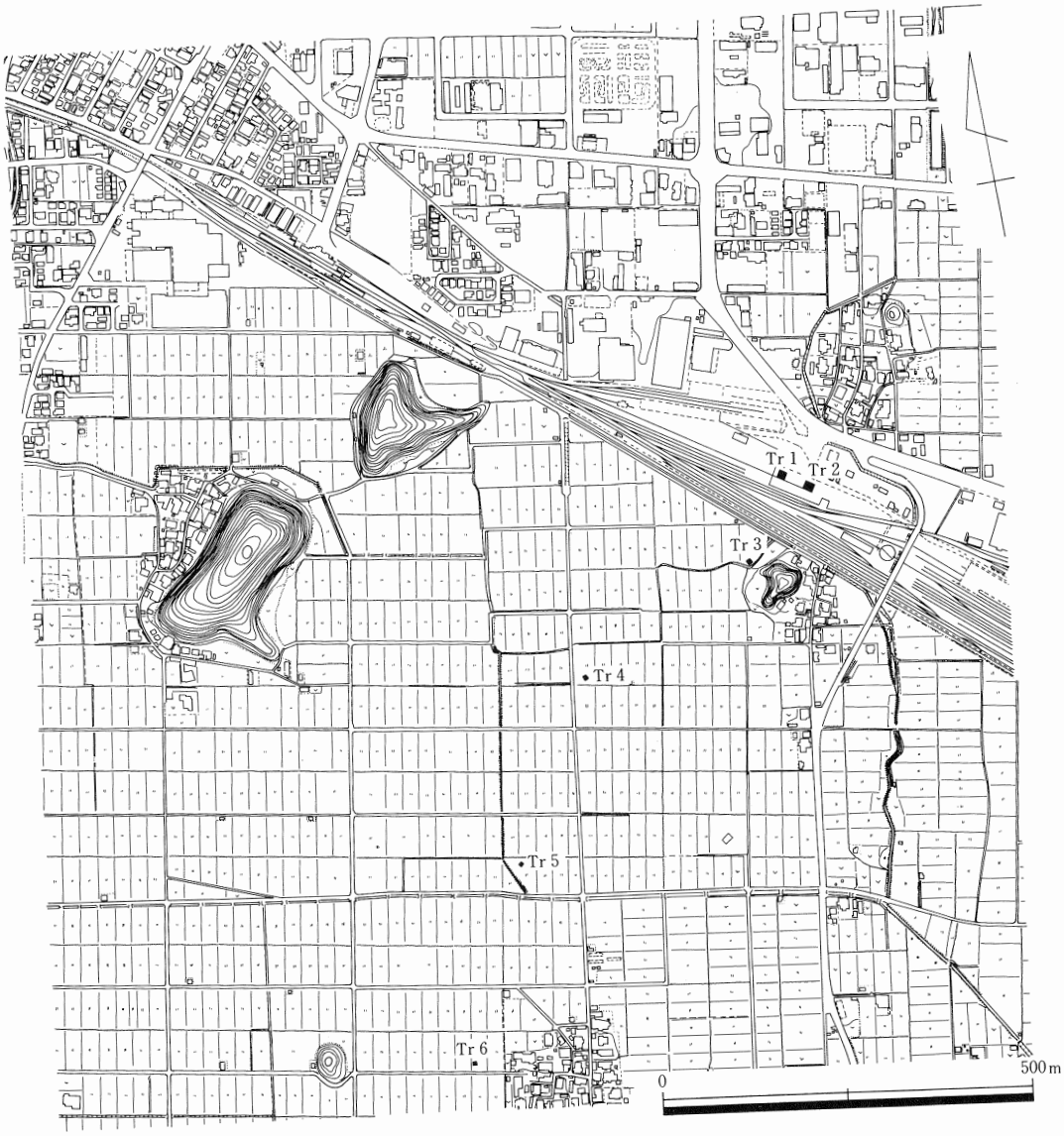
調査は、ＪＲ湖山駅の南東約700ｍの地点からその南約１㎞の変電所及び送電塔建設予定地でトレンチ調査を実施することとし、客土の有無等に考慮しながらその設定範囲を調整して計６ヶ所（総面積 330㎡）のトレンチを設定した。以下、対象地区の北側から第１、第２……第６トレンチとして各トレンチ調査の概略を述べていきたい。

第１トレンチ（Ｔｒ１）

ＪＲ山陰本線のすぐ北側の２本のトレンチのうち、西側に設定した10×10ｍ（100㎡）のトレンチである。当該地はかつては水田耕作地であったが、現況では客土がなされ整地が行われていた。

調査の結果、現地表面下の100～130㎝程度の客土（第１、２、３層）下に旧耕作土の一部が遺存していることが判明した（第４層）。この旧耕作土下に厚さ40㎝程度で、中世に主体をおく遺物包含層が認められ、その下の第７（暗褐色シルト）層および第11（明灰色シルト）層上面において遺構を検出した（第１遺構面）。

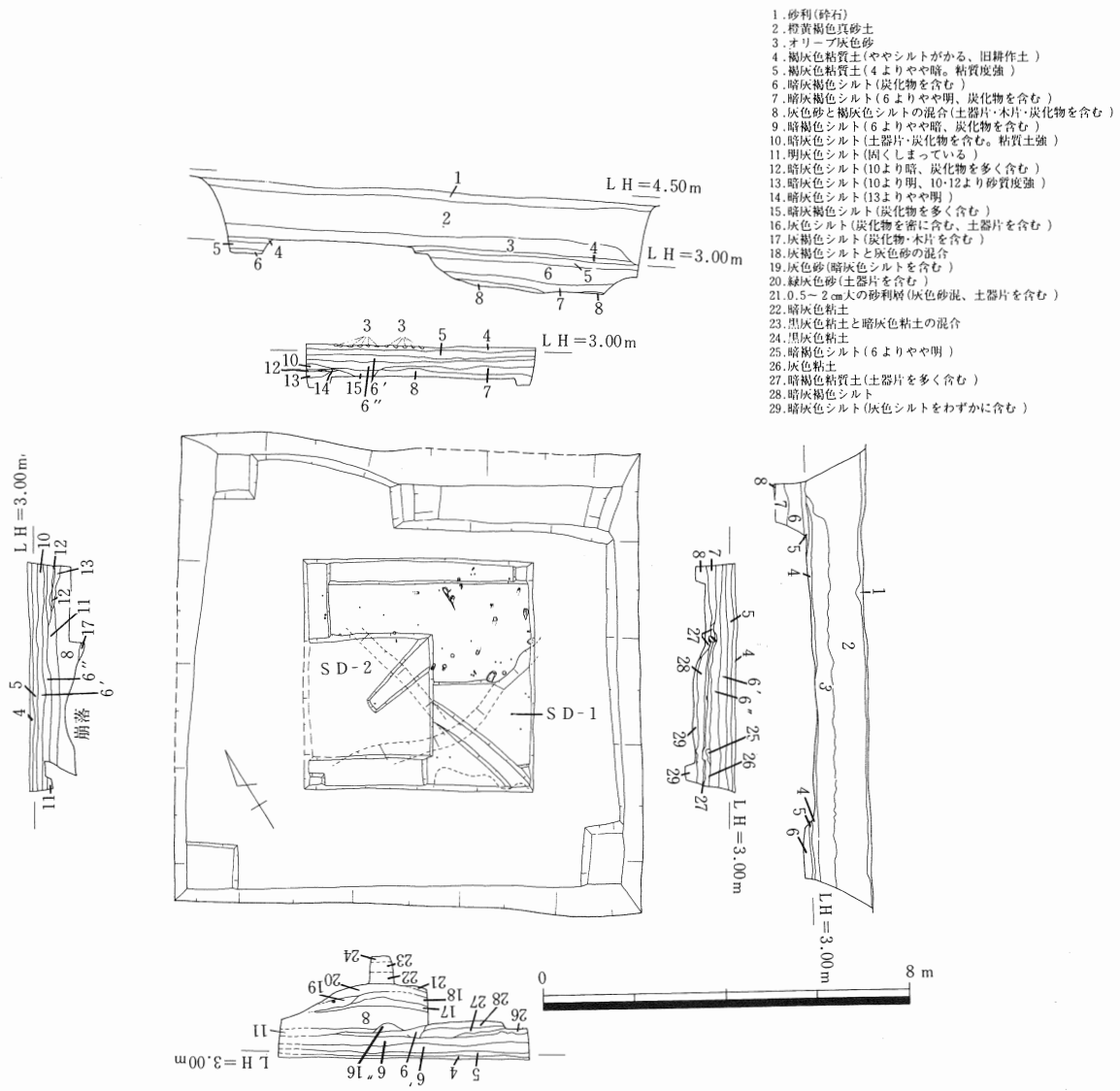
ここでは調査面積が狭いため遺構の性格は明確ではないが、奈良～平安時代のものと考えられる浅い溝状遺構（ＳＤ－１）が検出され、その埋土中から底部外面に墨書の施された杯類や甕等（第15図－１～３，図版10）が出土している。またトレンチ南壁の断面観察では、土坑状遺構が１基検



第６図　岩吉遺跡トレンチ配置図

出されている。なお７層上面からは現況ではその配列等は不明であるが、刺さった状態の多くの杭木が検出されている。

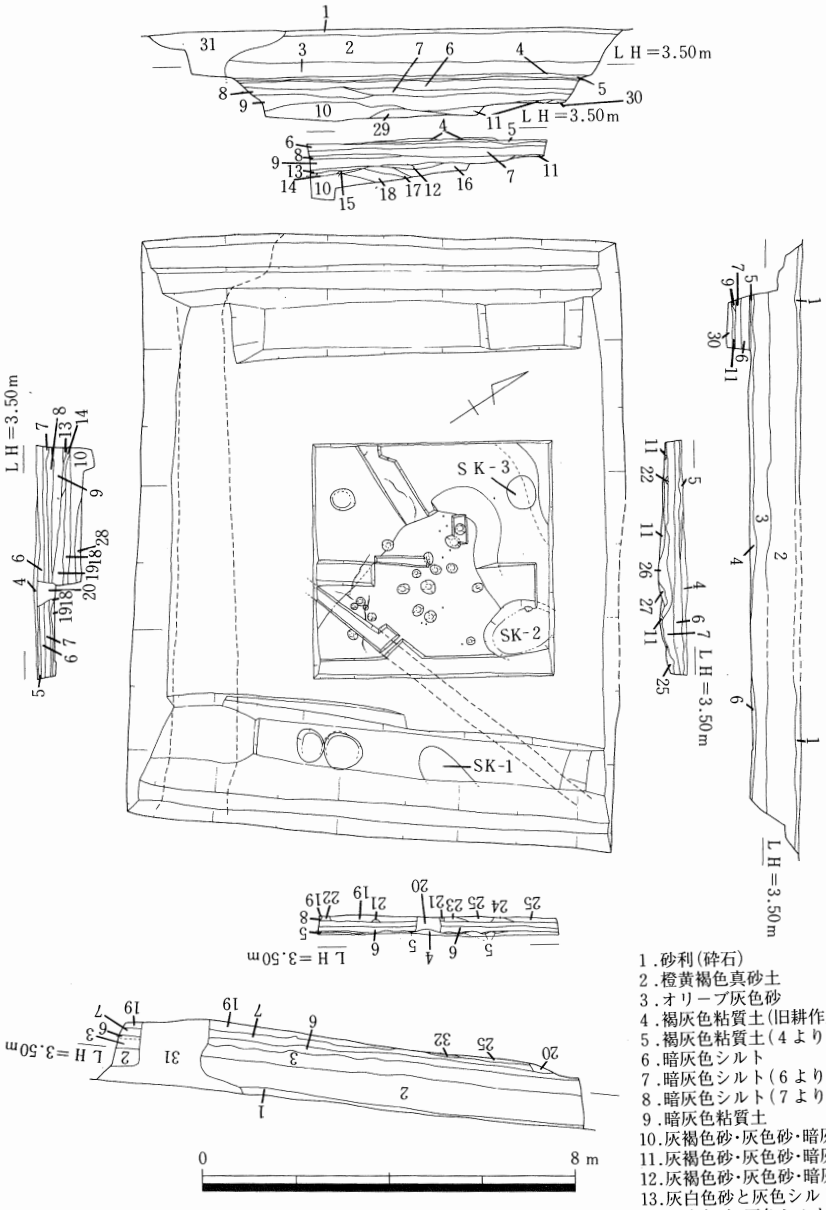
次いで、古墳時代後期から中世の遺物を検出した厚さ約50cmの第８（灰色砂と灰褐色シルトの混合）層下において遺構を検出した（第２遺構面）。ここでも調査面積狭小のため遺構の性格は明確ではないが、古墳～奈良時代のものと考えられる溝状遺構（ＳＤ－２）が検出され、その埋土中から土師器、須恵器とともに斎串状木製品等が検出されている。



第７図　岩吉遺跡第１トレンチ平面、断面実測図

第２トレンチ（Ｔｒ２）

第１トレンチの東約30ｍに設定した10×13ｍ（130㎡）のトレンチである。第１トレンチと同様に現地表面下の100㎝程度の客土（第１、２、３層）下に旧耕作土の一部が遺存していることが判明した（第４層）。この旧耕作土下に厚さ20～30㎝程度で、中世に主体をおきながら僅かではあるが古墳時代にまで遡る遺物包含層が認められ、その下の第19（明灰色シルトと灰色シルトの混合）層および第25（青灰色砂と灰色シルトの混合）層上面において土坑３基（ＳＫ－１、－２、－３）とピット21基を検出した。



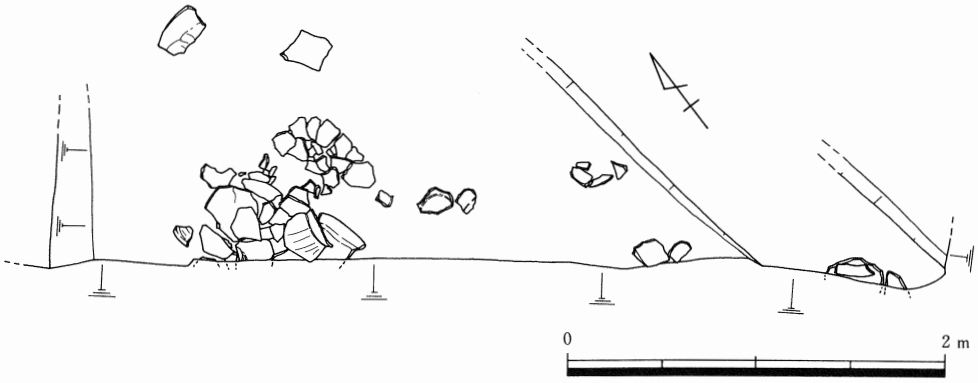
1.砂利(砕石)
2.橙黄褐色真砂土
3.オリーブ灰色砂
4.褐灰色粘質土(旧耕作土)
5.褐灰色粘質土(4よりやや明るく、黄褐色がかる：床土)
6.暗灰色シルト
7.暗灰色シルト(6よりやや明)
8.暗灰色シルト(7より明、固くしまる)
9.暗灰色粘質土
10.灰褐色砂・灰色砂・暗灰色シルトの混合(炭化物・木片・土器片を含む
11.灰褐色砂・灰色砂・暗灰色シルトの混合
12.灰褐色砂・灰色砂・暗灰色シルトの混合(炭化物を含む)
13.灰白色砂と灰色シルトの混合(炭化物を含む、固くしまる)
14.灰白色砂・灰色シルト・暗灰色シルトの混合
15.緑灰色シルトと灰色シルトの混合(固くしまる)
16.灰色粗砂(炭化物を含む)
17.緑灰色細砂(灰色シルトを含む)
18.緑灰色シルト・灰色シルト・灰色砂の混合(炭化物を含む)
19.明灰色シルトと灰色シルトの混合(固くしまる)
20.明灰色シルト・褐灰色粘質土・暗灰色粘質土の混合(暗渠埋土)
21.暗灰色シルト(7よりやや明)
22.暗灰色シルト(7よりやや暗)
23.明灰色細砂と褐色シルトの混合
24.暗灰褐色シルト(灰色細砂を含む)
25.青灰色砂と灰色シルトの混合
26.灰白色砂と暗灰色シルトの混合(炭化物を含む)
27.灰色砂と暗灰色シルトの混合
28.灰色砂
29.灰色粗砂
30.灰色砂(29よりやや明るく、粒度小)
31.攪乱土(1～9の混合)
32.暗褐灰色シルト(炭化物及び土器片を多く含む。SK－01埋土)

第8図　岩吉遺跡第2トレンチ平面、断面実測図

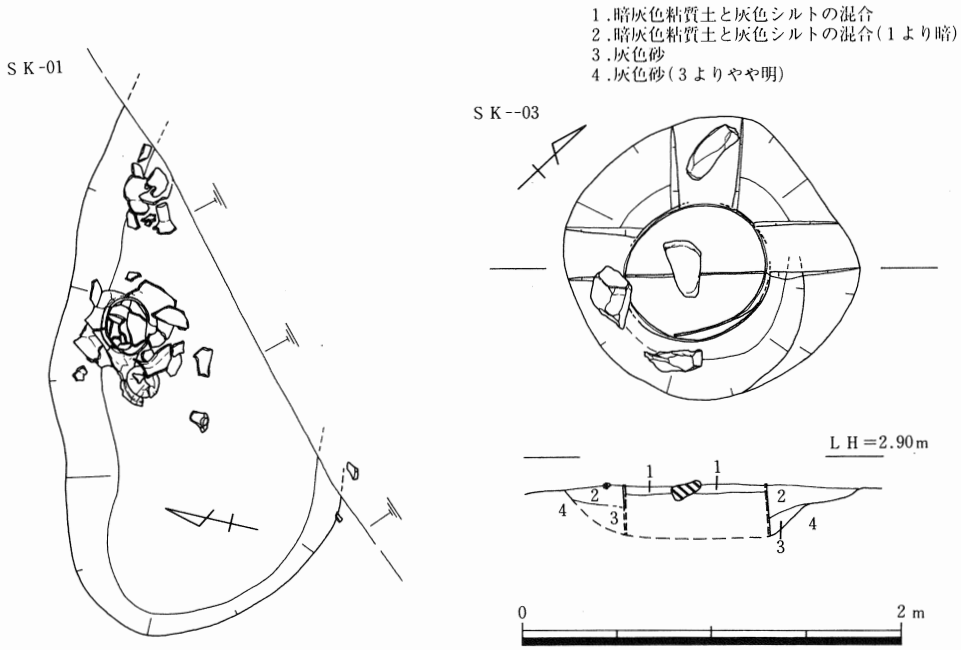
このうちＳＫ－１からは多量の炭化物とともに高杯、小型丸底壺、甕等（第16図－４～６，図版10）が検出されており、祭祀土坑の可能性が考えられる。またＳＫ－３では曲げ物が検出され、これを押えるように石も検出されたことから井戸の可能性も考えられる。

次いで第19層および第25層下には古墳時代中期から後期の遺物を検出した第10（灰褐色砂と灰色砂と暗灰色シルトの混合）層が続くが、湧水と壁面崩壊のためこれ以上のトレンチ調査は困難であった。

なおそのほかの遺構として、小規模ながら液状化現象によるものと考えられる砂脈を検出した。



第９図　岩吉遺跡第１トレンチＳＤ-1内遺物実測図



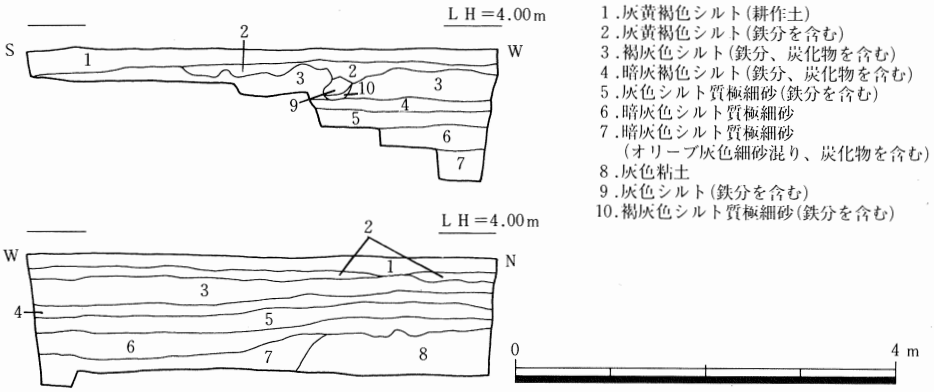
第10図　岩吉遺跡第２トレンチＳＫ-１、３実測図

第３トレンチ（Ｔｒ３）

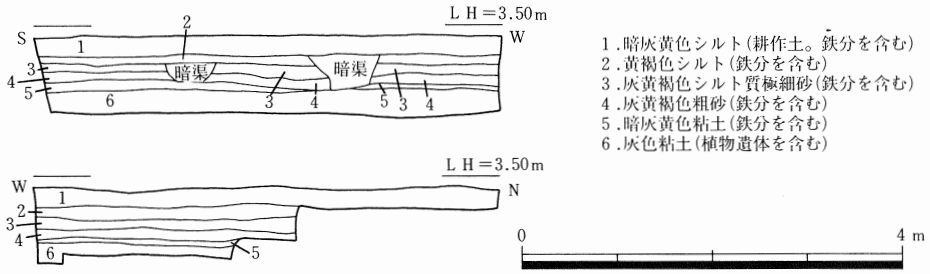
ＪＲ山陰本線のすぐ南側、独立丘陵の北西側に設定した５×５ｍ（25㎡）のトレンチである。現況は水田で標高3.8ｍに位置する。耕作土が15～20㎝堆積し、以下７層に分層できる。地表面から－60～70㎝で暗灰色シルト質極細砂となり以下砂層が続くが、北側の壁面では－80㎝で西側へ灰色粘土の落ち込みを確認した。耕作土から第３層までの間で中世～古墳時代後期の土器小片を検出している。

第４トレンチ（Ｔｒ４）

里仁集落の北約400ｍに設定した５×５ｍ（25㎡）のトレンチである。標高3.4ｍに位置する。耕作土下は水平堆積で第２層と３層から掘り込まれた暗渠を確認したのみである。遺物は耕作土中より土器細片数点出土した。



第11図　岩吉遺跡第３トレンチ断面実測図



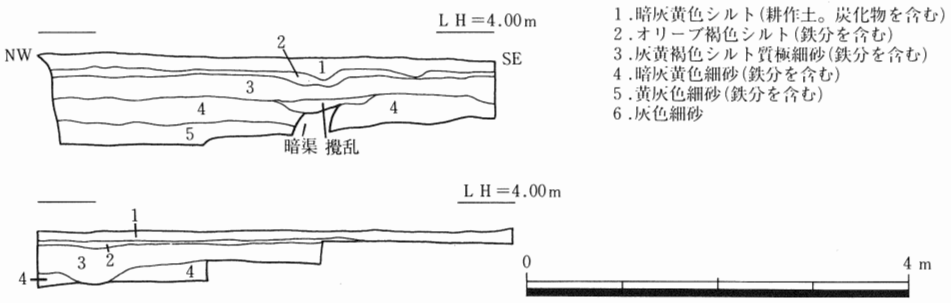
第12図　岩吉遺跡第４トレンチ断面実測図

第５トレンチ（Ｔｒ５）

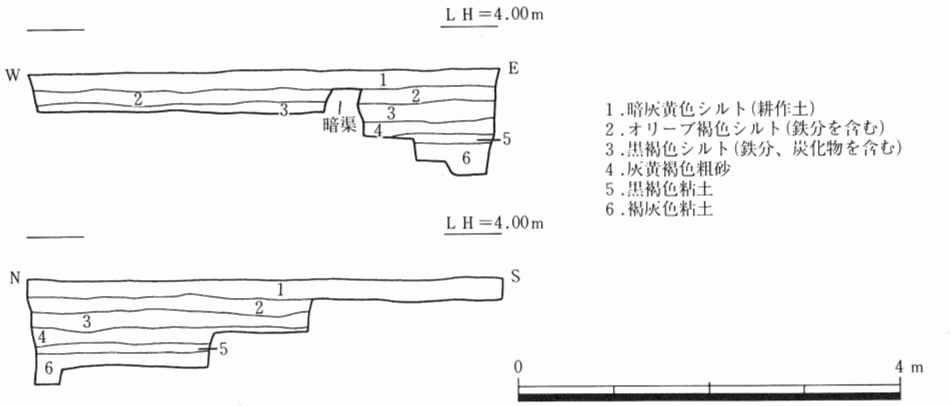
第４トレンチの南西に260ｍ、標高約4.1ｍを測る田地に設定した５×５ｍ（25㎡）のトレンチである。現耕作土及び旧耕作土の堆積が約20㎝みられ、暗灰黄色細砂（第４層）から掘り込まれた暗渠が認められる以外遺構は検出されなかった。灰黄褐色シルト質極細砂（第３層）から中・近世の土器細片が数点出土している。

第６トレンチ（Ｔｒ６）

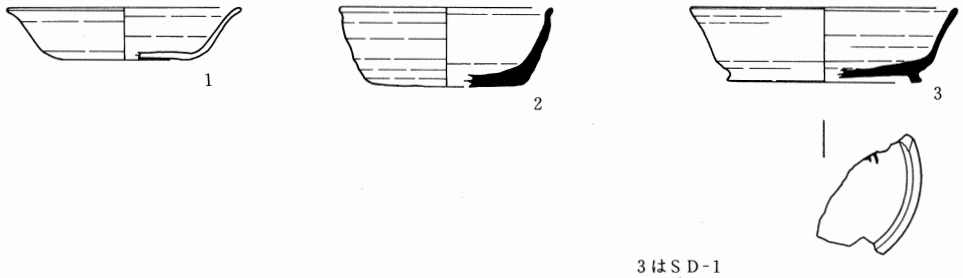
第５トレンチより南西に約270ｍ、標高約4.0ｍを測る田地に設定した５×５ｍ（25㎡）のトレンチである。現耕作土下約50㎝で灰黄褐色粗砂（第４層）となり、湧水が著しい。耕作土下のオリーブ褐色シルト（第２層）から土器細片が出土している。中・近世のものと考えられる。第２層から掘り込まれる瓦積みの暗渠以外は遺構は検出されなかった。



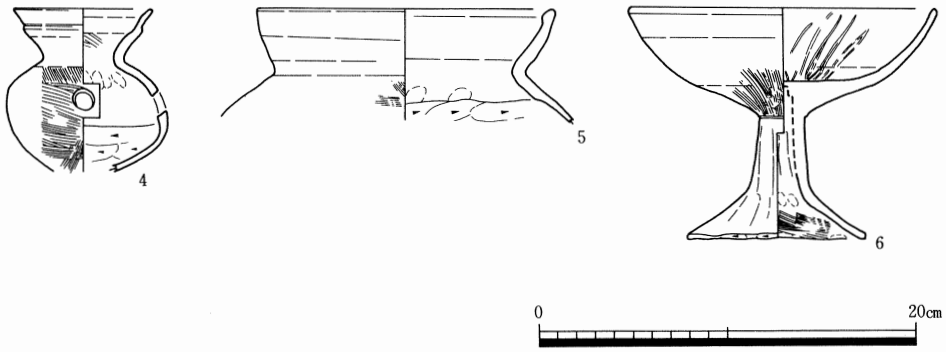
第13図　岩吉遺跡第５トレンチ断面実測図



第14図　岩吉遺跡第６トレンチ断面実測図



第15図　岩吉遺跡第１トレンチ出土遺物実測図



第16図　岩吉遺跡第２トレンチＳＫ-1出土遺物実測図

Ⅳ. 古 市 遺 跡

1．遺跡の位置と周辺の遺跡

古市遺跡は鳥取市古市および吉成に所在し、ＪＲ鳥取駅から南西に約１㎞に位置している。すぐ西側には鳥取平野を二分する千代川が流れ、南側で支流である大路川が合流している。古市遺跡はこれらの河川の堆積作用によって形成された沖積平野に立地している。古市遺跡の所在は、耕作地に遺物が散布していたことから明らかになり、遺物散布地として知られるようになったが、これまでに発掘調査が行われたことはなく、遺跡の内容は現在まであまり明らかにされていない。

古市遺跡周辺部の遺跡として、縄文時代の貯蔵穴が検出された大路川遺跡、弥生時代中期から古墳時代前期の掘立柱建物跡が検出された久末・古郡家遺跡、弥生時代から中世の住居跡や、中細銅剣が出土した西大路土居遺跡、木簡や人形が出土した奈良時代から中世の遺跡である宮長竹ケ鼻遺跡が知られている。いずれも千代川右岸の平野部に営まれている遺跡である。また、鳥取平野をのぞむ南部丘陵は古墳の密集地として知られており、美和、古郡家、六部山、広岡、空山、紙子谷、生山、海蔵寺などの古墳群が展開している。これらの古墳群の中には、因幡地域で最古とされている全長63㎡を測る六部山３号墳（前方後円墳）や、六部山３号墳に続く首長墓として考えられる、因幡地域最大級の前方後円墳である古郡家１号墳(全長90ｍ)が築造されている。さらに、空山古墳群や広岡古墳群の中には鳥、人物、三角文等の線刻壁画が施された横穴式石室をもつ古墳が確認されている。このように、鳥取平野の南部丘陵一帯には古墳時代前期から後期の古墳が多数築造されており注目すべき地域となっている。

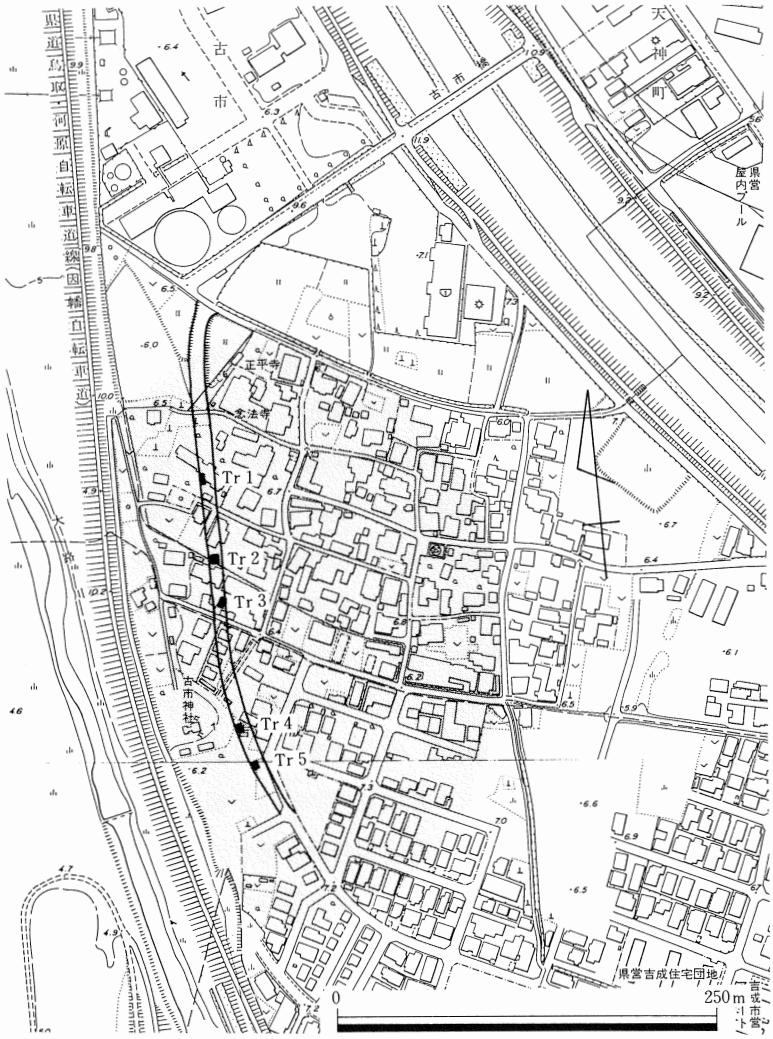
2．発掘調査の概要

今回の試掘調査の対象地区は道路改良工事区間全長約260ｍ、幅10ｍの範囲である。調査は、調査区内５箇所にトレンチを設定し､土層ごとに掘り下げて遺構､遺物の有無を確認する方法で行なった。トレンチの設定は調査区北側から南側に向かって第１、第２、第３、第４、第５トレンチとし、規模は第１トレンチから2.2×7.5ｍ、５×５ｍ、３×７ｍ、3.5×７ｍ、3.5×６ｍである。調査総面積は108.5㎡である。

調査の結果、第１トレンチから溝状遺構１、柱穴３、第２トレンチから溝状遺構１、土坑１、第３トレンチから土坑１、柱穴７を検出した。遺構内からは須恵器、土師器などの遺物が出土し、これらの遺物から奈良時代～中世の遺跡が所在していることが確認された。

第１トレンチ（Ｔｒ１）

調査区の北側に設定したトレンチである。３層から上層は建物の基礎溝などがありかなり攪乱を受けているが、４層や12層は比較的安定した層序を示している。４、12、13層は遺物包含層で、須



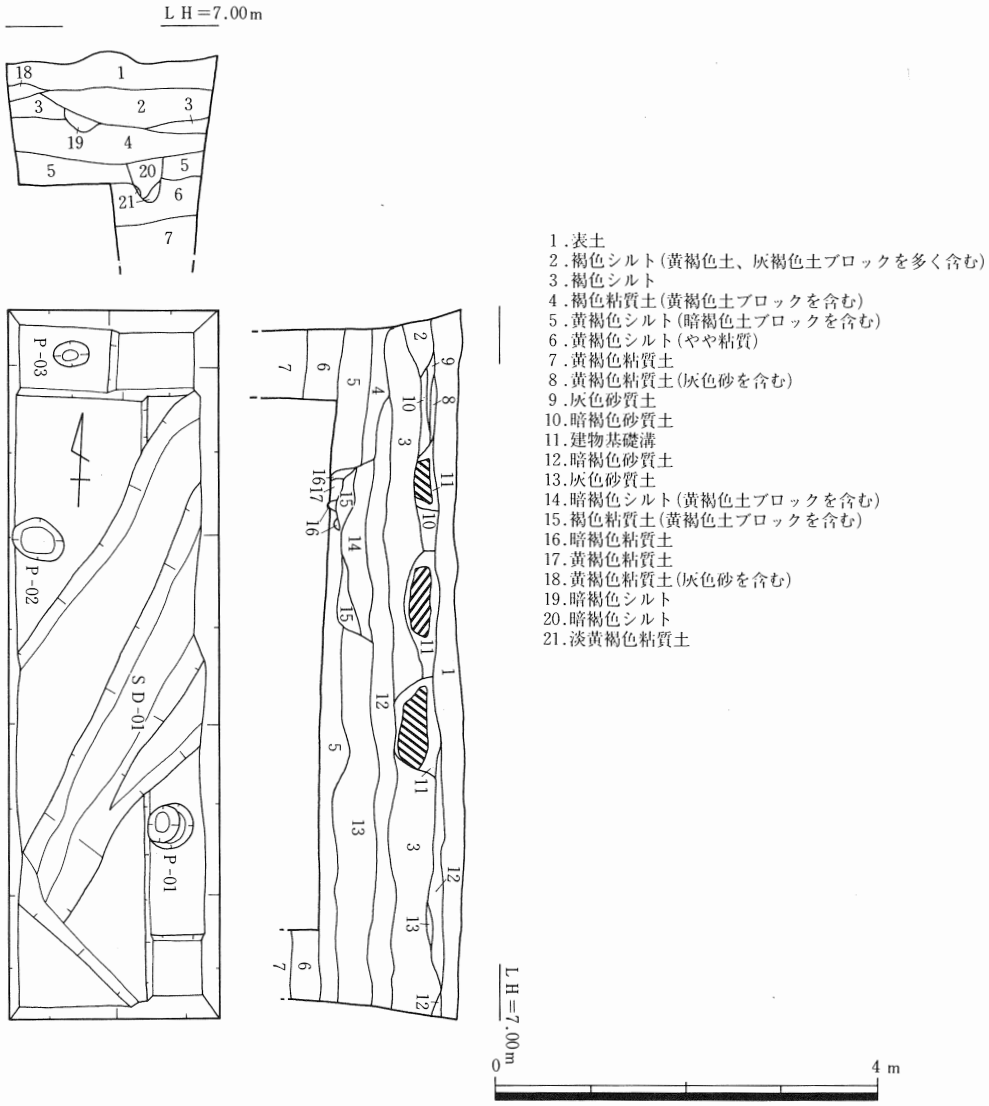
第17図　古市遺跡トレンチ配置図

恵器片、土師器片が出土した。５、６、７層から遺物は検出されなかった。７層の黄褐色粘質土は均一の堆積土である。

地表下0.9ｍ前後で溝状遺構（ＳＤ-01）、柱穴（Ｐ-01～Ｐ-03）を検出した。また、北壁の断面観察から柱穴（Ｐ-04）が確認された。ＳＤ-01、Ｐ-01、Ｐ-02はいずれも４層および13層上面から、Ｐ-04は５層上面から掘り込まれるている。ＳＤ-01から須恵器杯（第23図－３）、土師器甕（第23図－１、２）、Ｐ-01から土師器片が出土した。出土遺物から奈良時代の遺構と考えられる。

第２トレンチ（Ｔｒ２）

第１トレンチの南側50ｍに位置する。３層が旧表土とみられ、その上層の１、２層は客土である。２、３層の上面から掘り込まれている土坑はいずれも近代のものである。２、４、12層は比較的安定した層序を示し、４層から須恵器杯（第23図－９）、土師器甕（第23図－７）、赤彩された土師器



第18図　古市遺跡第１トレンチ平面、断面実測図

杯（第23図－８）の他30点あまりの土器片が出土した。５層は第２トレンチ７層の黄褐色粘質土と同一の堆積土である。

地表下1.1ｍ～1.3ｍで溝状遺構（ＳＤ-01）、土坑（ＳＫ-01）を検出した。ＳＫ-01は４層上面、ＳＤ-01は、５層上面から掘り込まれるている。ＳＫ-01から須恵器杯片、底部に糸切痕がみられる土師器杯（第23図－４）が出土した。いずれも中世の遺構と考えられる。

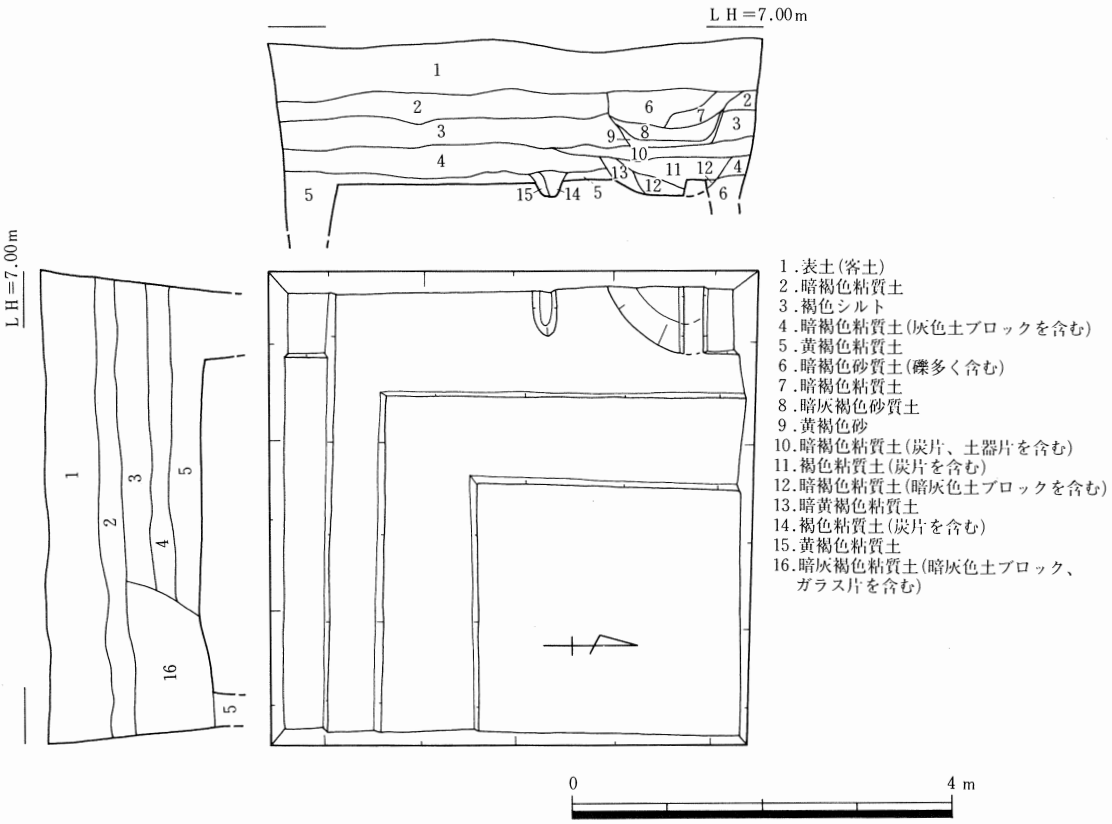
第３トレンチ（Ｔｒ３）

第２トレンチの南側30ｍに位置する。２層上層の１、６、７層はかなり攪乱を受けているが、２、３、４、５層は比較的安定した堆積状況を示している。３、４層には遺物が含まれており、３層から須恵器杯、土師器甕、４層からは須恵器杯、土師器甕など多数の土器片が出土した。５層の黄褐色粘質土は、第１、２トレンチのそれぞれ７、５層と同一の堆積土である。

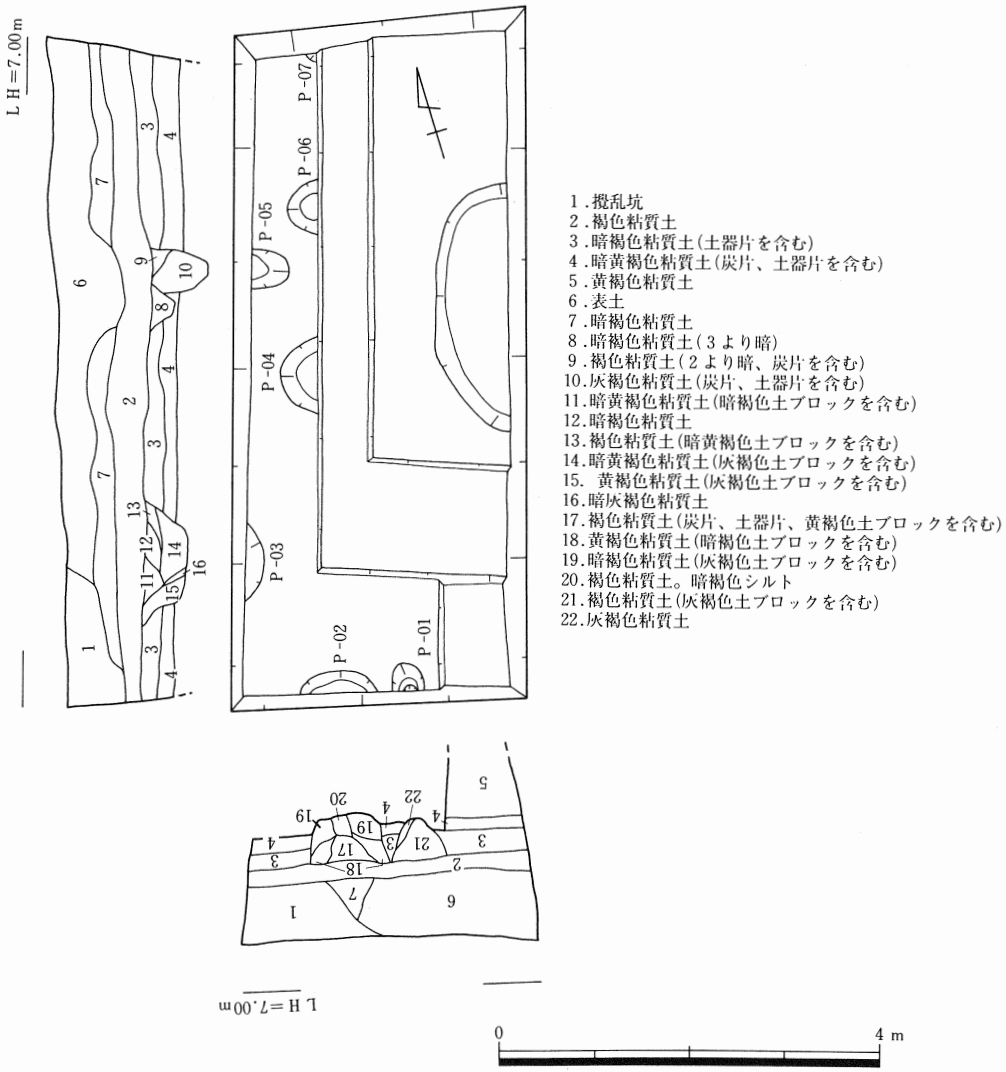
地表下0.9ｍ～1.2ｍから土坑（ＳＫ-01）、柱穴（Ｐ-01～Ｐ-07）を検出した。いずれも３層上面から掘り込まれている。Ｐ-04～Ｐ-06～Ｐ-07には柱穴間の距離や配列に規則性がみられることから、掘立柱建物跡の可能性が考えられる。ＳＫ-01から土師器甕（第23図－５）、Ｐ-04から高台をもつ須恵器杯底部、Ｐ-05から須恵器杯（第23図－６）が出土した。出土遺物から奈良時代の遺構と考えられる。

第４トレンチ（Ｔｒ４）

第３トレンチの南側80ｍに位置し、古市神社の東側に設定したトレンチである。近年まで水田耕作が行われていたが、その後大量の客土が行われ現在畑地として利用されている。７層が水田耕作



第19図　古市遺跡第２トレンチ平面、断面実測図

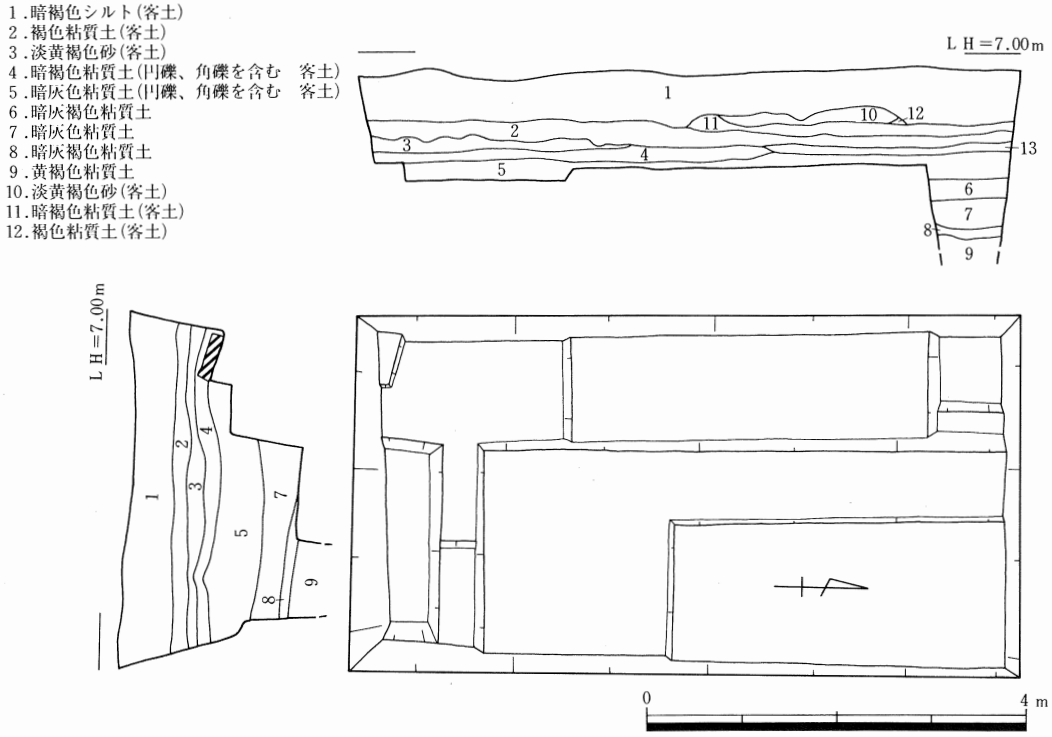


第20図　古市遺跡第３トレンチ平面、断面実測図

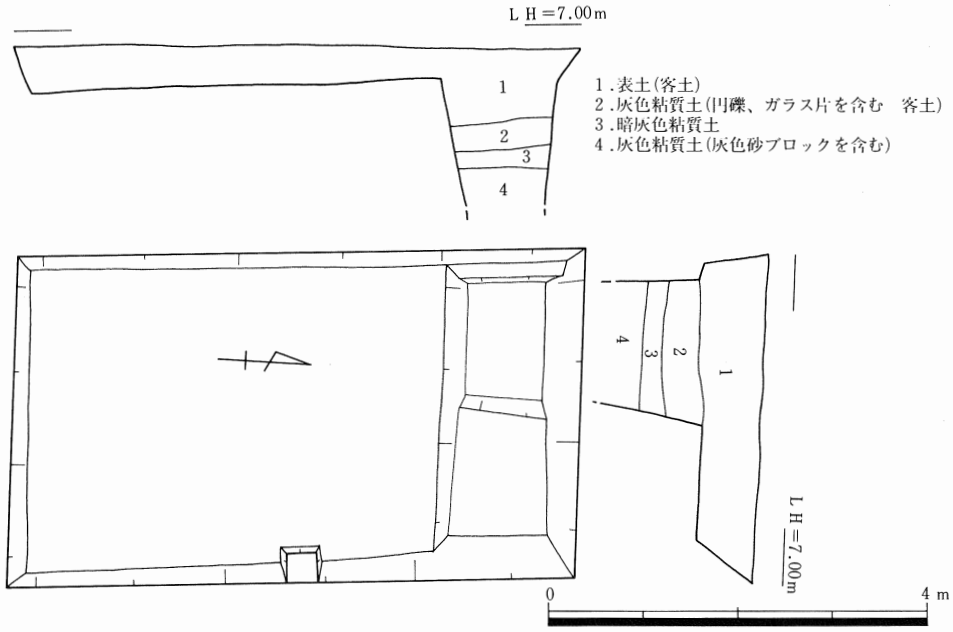
土とみられ、その上層はいずれも客土である。９層の黄褐色粘質土は、第１、２、３トレンチのそれぞれ７、５層と同質の堆積土である。遺構は検出されなかった。遺物は、客土中から土器細片が出土した。

第５トレンチ（Ｔｒ５）

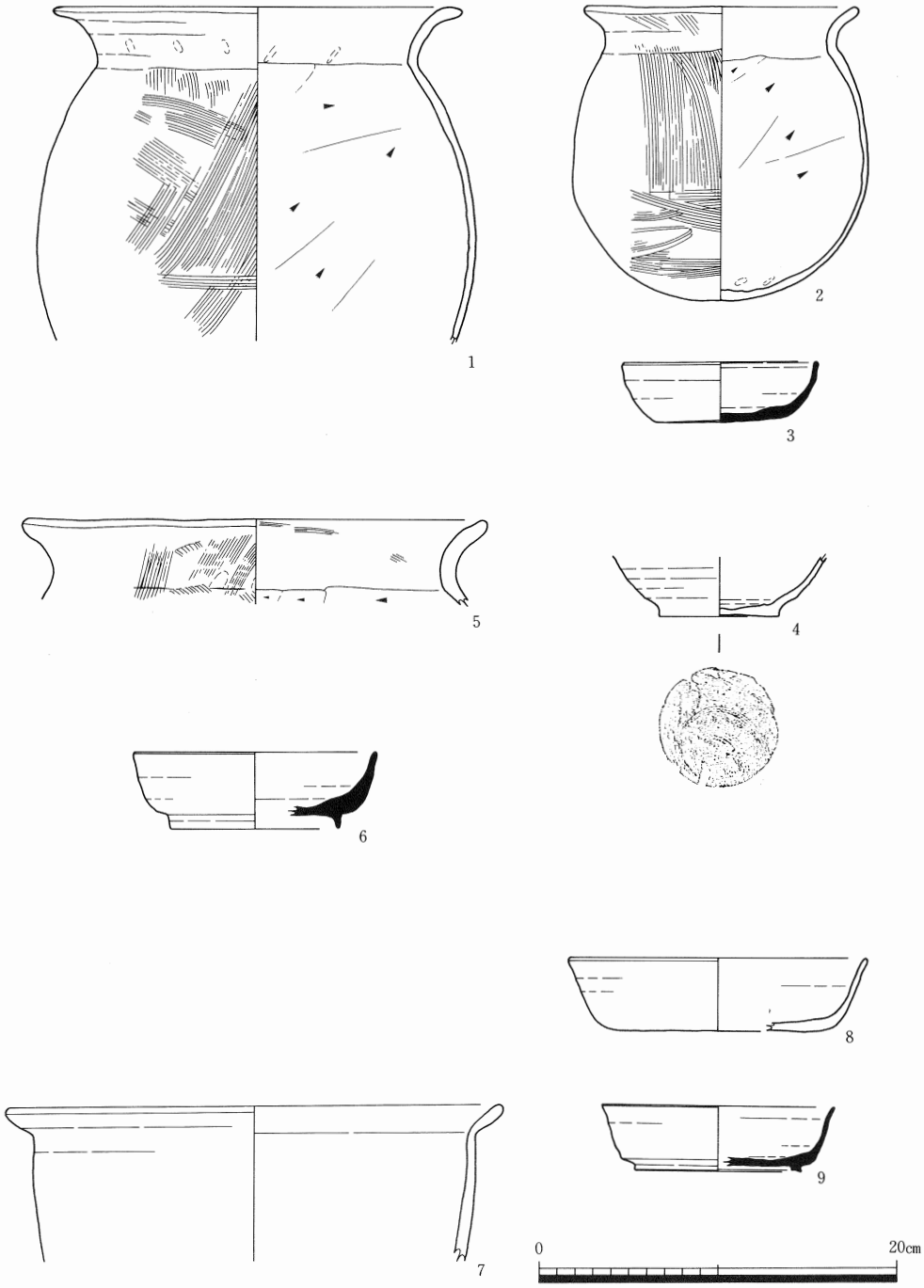
第４トレンチの南側20ｍに位置する。第４トレンチ同様厚さ1.2ｍ前後の客土（１、２、３層）が行われている。周辺の地形からみても水田耕作時の用水路の位置にあたることから、４層は用水路の堆積土とみられる。第１、２、３、４トレンチで確認された基盤層と思われる黄褐色粘質土層の確認は出来なかった。遺物は客土中から土器細片が出土したが、遺構は検出されなかった。



第21図　古市遺跡第4トレンチ平面、断面実測図



第22図　古市遺跡第5トレンチ平面、断面実測図



第23図　古市遺跡出土遺物実測図

V. ま と め

1．桂見遺跡群

今回の試掘調査では、遺構は第２、第５、第６トレンチから検出されている。第２トレンチのものはＳＤ－１で、周辺の地形等とも考えあわせると当初から想定されていた墳墓に関連した周溝あるいは墳裾であることが考えられる。

また、第５、第６トレンチからは遺物はほとんど検出されなかったものの、袋状土坑やピットが検出されている。これらは周辺に存するであろう集落跡の一端をになうものと想定される。

なお今回のトレンチ調査の結果は、調査対象地区全体に比べると部分的なものといわざるをえない。従ってトレンチ設定地以外にも注意を払っていく必要があることを付記しておきたい。

2．岩吉遺跡

今回の試掘調査では、遺構は第１、第２トレンチから検出されている。第１トレンチでは二つの遺構面を認めることができ、いずれからも溝状遺構（ＳＤ－１、同－２）が検出されている。これらは出土遺物から見る限り、古代あるいは中世の役所、祭祀に関連した遺構の可能性が高いと考えられよう。ただし、前述のとおりトレンチ調査の制約上その遺構の性格まで明確にすることはできず、本文中では便宜的に溝状遺構としたことを改めて断っておきたい。なお第１トレンチでは、部分掘り下げの結果旧耕作土下約２ｍに黒灰色粘土層を検出した。本遺跡内の別の地区ではこれと類似した土層が弥生時代の遺物包含層である。今回のトレンチ調査では湧水と壁面崩壊のため確認はできなかったものの、周辺に遺物包含層あるいは第３遺構面が存する可能性も考慮する必要があろう。

次いで第２トレンチでは一つの遺構面を認めることができ、土坑とピットが検出されている。これらの遺構は、同一面での検出ではあるが、出土した遺物から古墳時代中期から奈良時代頃と中世以降の二時期のものと考えられる。

第３～６トレンチについては、遺構の存在は確認できなかったものの第３トレンチで細片かつ少量であるが時期を特定できる遺物を検出している。また遺構の確認された第１、第２トレンチから100ｍ余りの近距離であること、調査範囲が狭小であることなどの諸条件を考えれば付近に遺構等が存在する可能性は十分あり注意を要する。第４～６トレンチについても湧水等の悪条件により標高2.5ｍ前後までの掘削・調査しかできなかったが、遺跡の存在は全く否定できないことを断っておきたい。

3．古市遺跡

今回の発掘調査は道路改良工事に伴う事前の遺跡確認調査である。調査は、路線上の幅10ｍ、全長約260ｍについて５箇所のトレンチを設定して行った。調査総面積は108.5㎡である。

調査の結果、路線の北側に設定した第１、２、３トレンチから掘立柱建物跡、土坑、溝、柱穴などの遺構を検出した。これらの遺構の時期は奈良時代～中世と考えられ、２面の遺構面が存在していることが明らかとなった。個々の遺構の規模、性格については調査範囲等の制約により十分に把握しきれないが、これらの遺構、遺物は同時期の集落跡などの存在を示唆している。また、遺物包含層も確認され、第１トレンチの４、13層、第２トレンチの４層、第３トレンチの３、４層がこれにあたる。

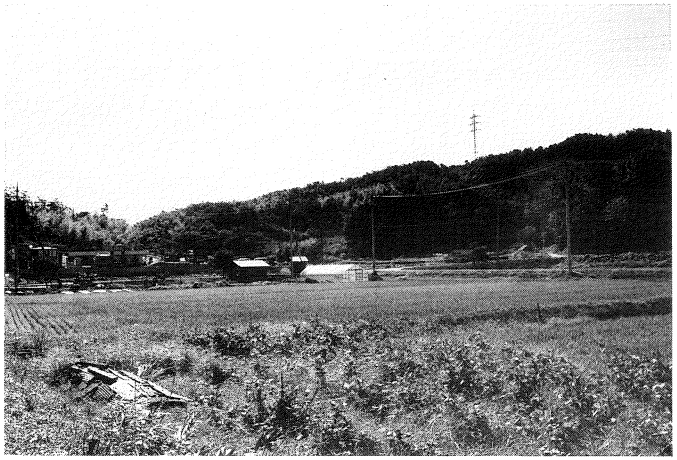
今回の調査は古市遺跡の西端部にあたる非常に小範囲について行ったものであるが、土層の堆積状況をみると古市神社から北～北東側で一時期比較的安定していたことがうかがわれる。また、南側については第４、５トレンチの調査で明らかな遺構を確認することは出来なかったが、立地的にも水田跡などの可能性も十分考えられ、古市遺跡の範囲を把握するうえにも今後も注意を払っていく必要があろう。

報告書抄録

ふりがな	とっとりしないいせきはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書
副書名	桂見遺跡群、岩吉遺跡、古市遺跡
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	前田　均、山田真宏、藤本隆之、坪田晴子、平川　誠
編集機関	鳥取市教育委員会
所在地	〒680　鳥取県鳥取市上魚町39
発行年月日	西暦1995年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積m²	調査原因
かつらみ 桂見	とっとりけんとっとりし 鳥取県鳥取市 かつらみ 桂見	31201		35° 29′ 27″	134° 10′ 50″	19941011 ～ 19941026	56.6	公園造成
いわよし 岩吉	とっとりけんとっとりし 鳥取県鳥取市 いわよし 岩吉	31201		35° 30′ 32″	134° 11′ 42″	19941101 ～ 19941124	330	電気
ふるいち 古市	とっとりけんとっとりし 鳥取県鳥取市 ふるいち 古市	31201		35° 29′ 15″	134° 13′ 10″	19941129 ～ 19941212	108.5	道路

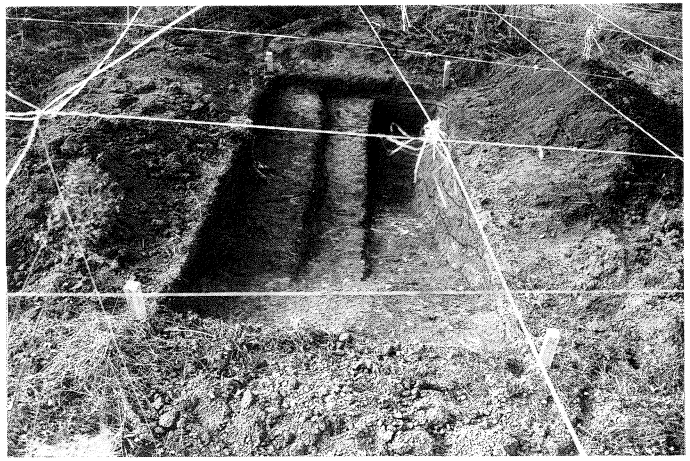
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桂見	古墳 集落	古墳 古墳	溝状遺構 柱穴、袋状遺構	土師器 土師器	試堀調査として実施。
岩吉	集落	古墳 奈良～中世	溝状遺構、土杭、井戸状遺構、柱穴	土師器、須恵器、弥生土器、曲物	試堀調査として実施。弥生から中世までの複合遺跡。墨書土器出土。
古市	集落	奈良 中世	掘立建物、溝状遺構、土杭、柱穴	土師器、須恵器、	試堀調査として実施。



1．桂見遺跡　第1・第2トレンチ周辺遠景（北から）

2．同　第3・第4トレンチ周辺遠景（北東から）

3．同　第5・第6トレンチ周辺遠景（北西から）

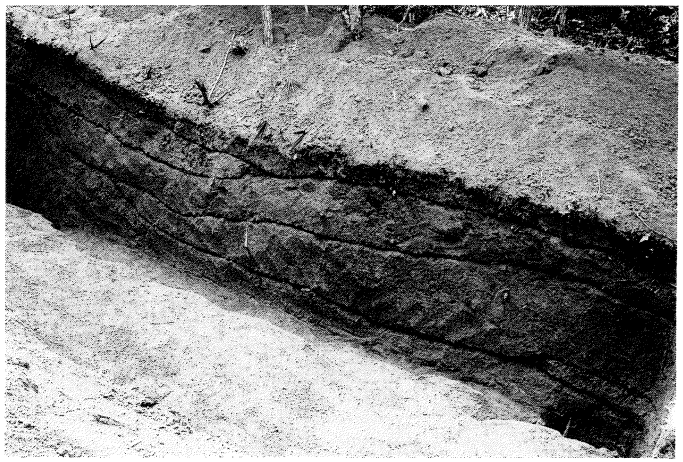


4．同　第1トレンチ（南東から）

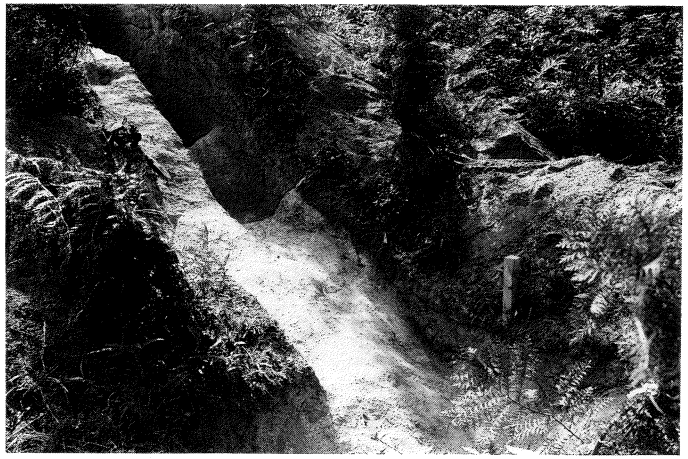
図版 1

図版 2

1．桂見遺跡群　第２トレンチ北西壁断面（東から）



2．同　第３トレンチ南壁断面（北西から）



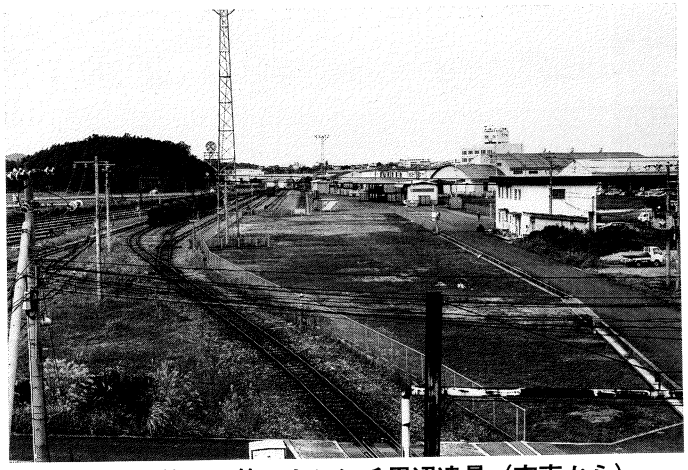
3．同　第４トレンチ北西壁断面（東から）

4．同　第５トレンチ北壁断面（南西から）

1．桂見遺跡群　第5トレンチ（西から）

2．同　第6トレンチ（西から）

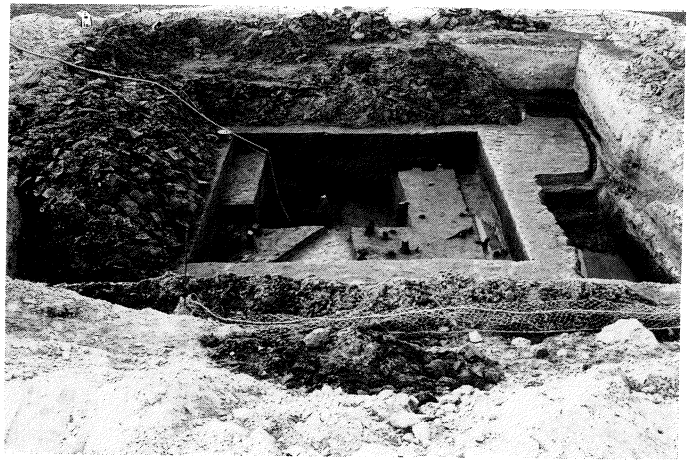
3．岩吉遺跡　調査地遠景（上空北東から）



4．同　第1・第2トレンチ周辺遠景（南東から）

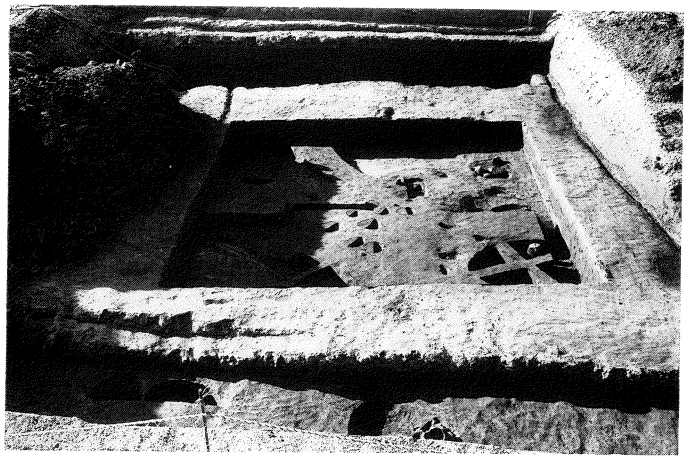
図版3

図版 4



1．岩吉遺跡　第1トレンチ（南東から）

2．同　第1トレンチ　SD-1、SD-2（北東から）

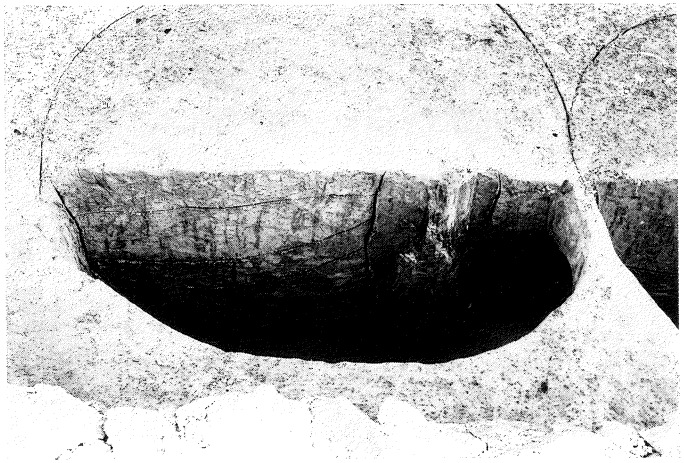


3．同　第2トレンチ（南東から）

4．同　第2トレンチ南壁断面（北東から）

1．岩吉遺跡　第２トレンチ　ＳＫ－１、Ｐ－１、Ｐ－２
（北東から）

2．同　第２トレンチ　ＳＫ－１（北から）



3．同　第２トレンチ　Ｐ－１断面（北西から）

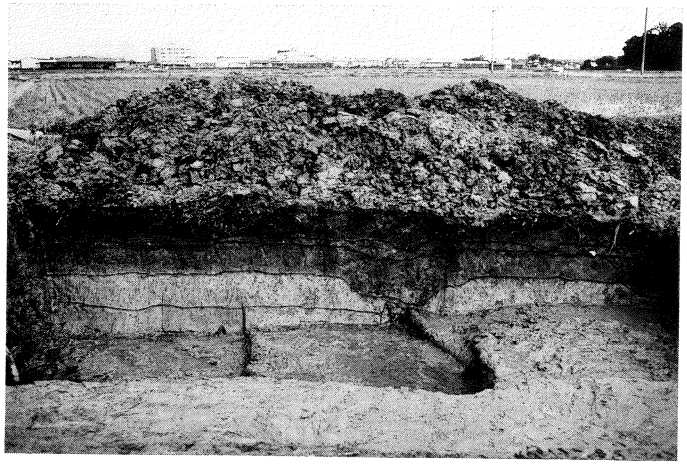
4．同　第２トレンチ　ＳＫ－３（南東から）

図版５

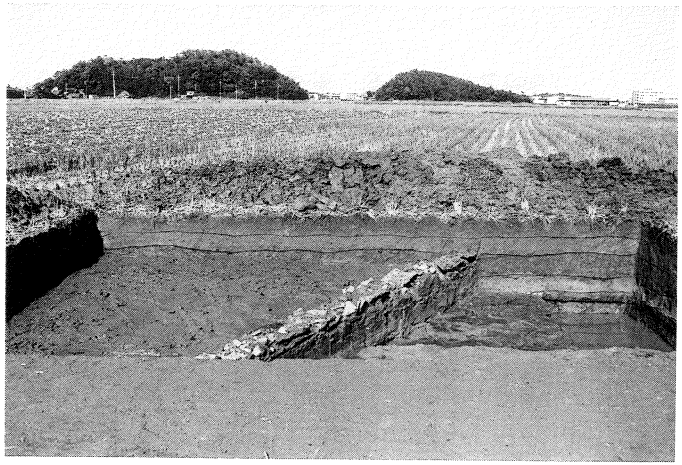
図版 6

1．岩吉遺跡　第3トレンチ（南東から）

2．同　第4トレンチ（南東から）

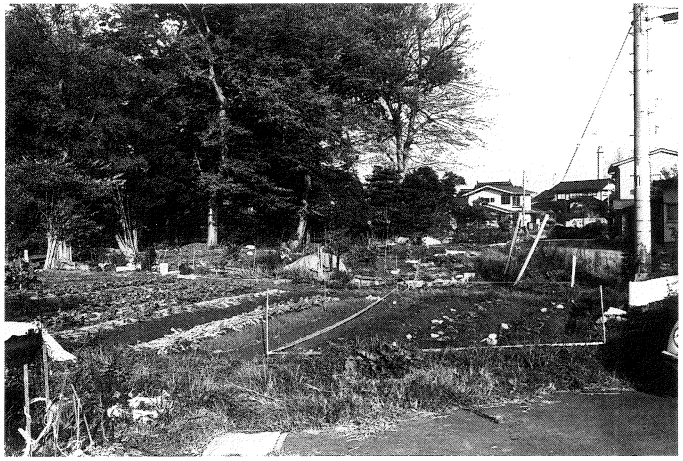


3．同　第5トレンチ　北壁断面（南から）



4．同　第6トレンチ（南東から）

1．古市遺跡　調査区北側近景



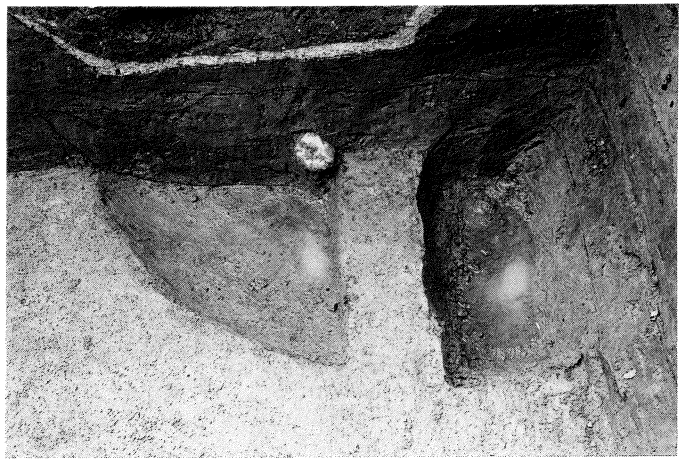
2．同　調査区南側近景

3．同　第1トレンチ　遺構検出状況（北から）

4．同　第1トレンチ（南から）

図版 7

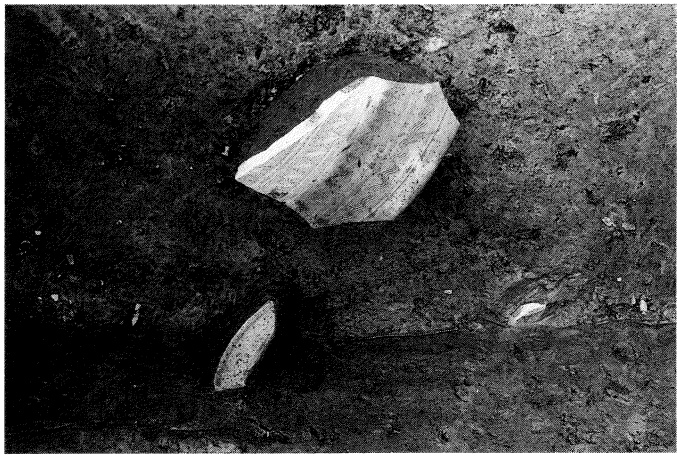
1．古市遺跡　第２トレンチ（東から）



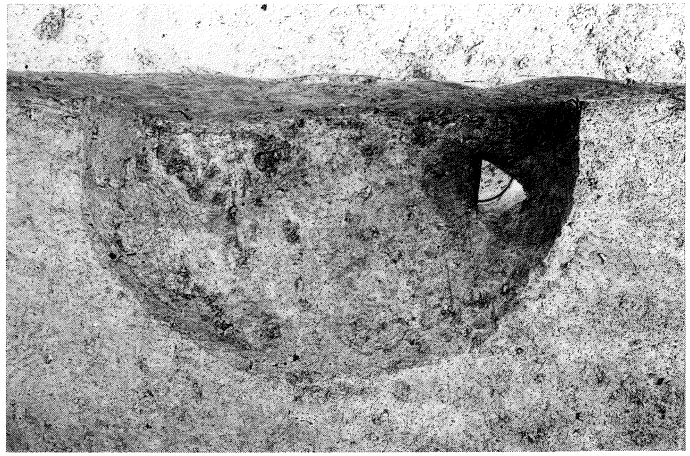
2．同　第２トレンチ　ＳＫ-01（東から）

3．同　第３トレンチ（南から）

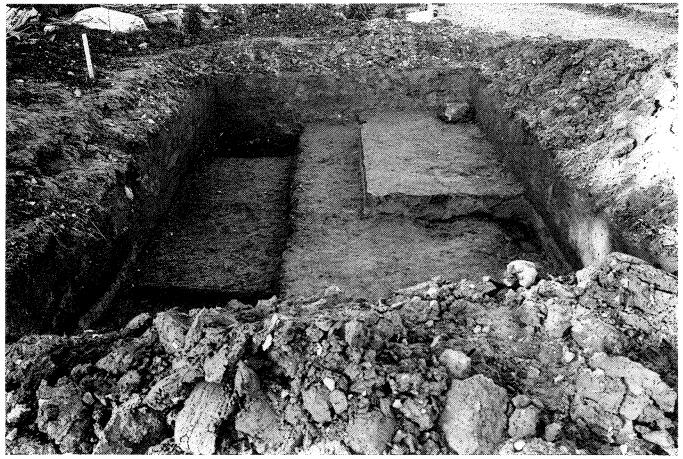
4．同　第３トレンチ　ＳＫ-01（西から）



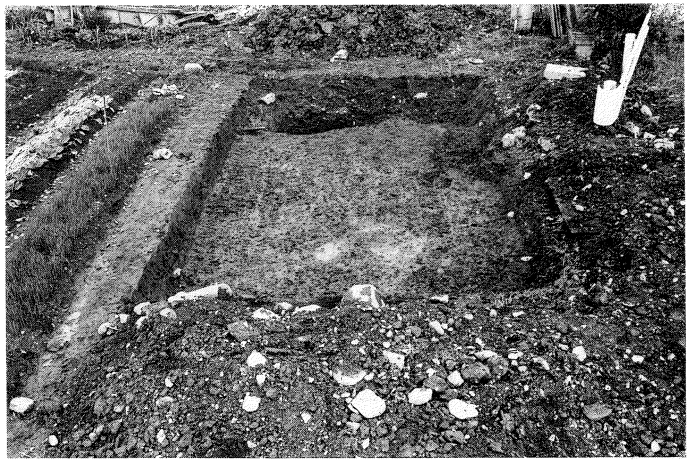
1．古市遺跡　第３トレンチ　ＳＫ-01遺物出土状況



2．同　第３トレンチ　Ｐ-04（西から）



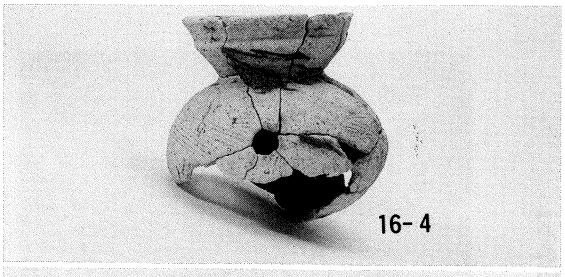
3．同　第４トレンチ（南から）

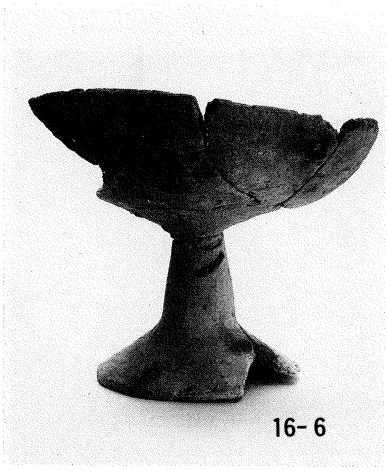


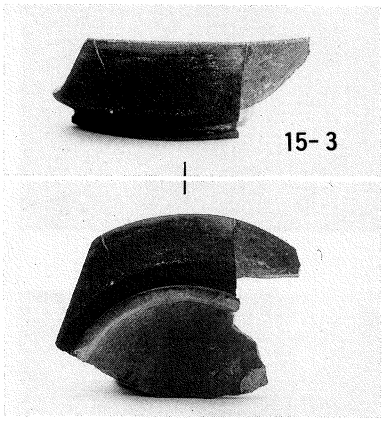
4．同　第５トレンチ（南から）

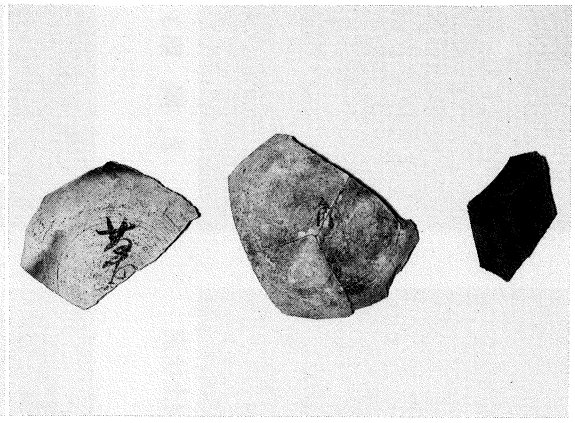
図版９

図 版 10

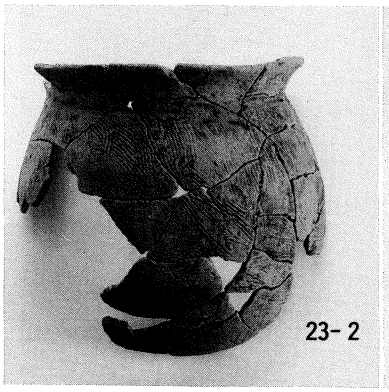


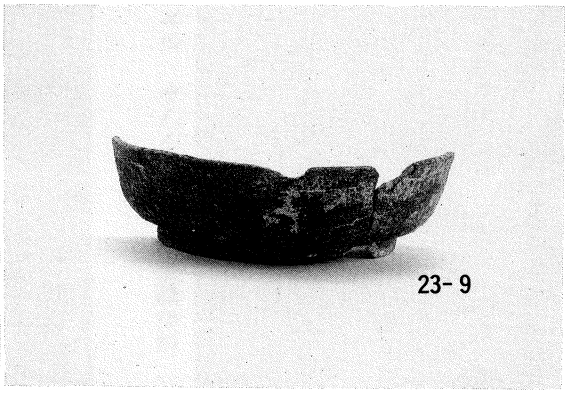






岩吉遺跡　出土遺物





古市遺跡　出土遺物

平成６年度
鳥取市内遺跡
発掘調査概要報告書
平成７年３月　印刷・発行
編集・発行　鳥取市教育委員会